

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 (第13回)

日時：平成23年3月29日(火) 15:00～16:30

場所：横浜市庁舎8階 8S会議室

■次 第■

【進行 深川課長】

15:00～

1. 開会 (委員長ご挨拶)

【進行 森本委員長】

2. 議事

15:00～

(1) 区計画及び市計画の策定・推進状況について【20分】

<資料1>

15:20～

(2) 推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」
ための分科会(ヒント集)について【30分】

<資料2>

3. 報告

15:50～

(1) 推進の柱2「必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」
「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」
の結果について【20分】

<資料3>

16:10～

(2) 地域活動者のための個人情報の手引きについて【10分】

<資料4>

16:20～

(3) 横浜市地域福祉活動計画(市社会福祉協議会)について【10分】

<資料5>

4. その他

添付資料

- ・ (資料1-①) 第2期区地域福祉保健計画の策定推進状況 (各区スケジュール)
- ・ (資料1-②) 平成22年度 横浜市地域福祉保健計画 関連事業取組状況
- ・ (資料2-①) 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 (第12回) からのヒント集作成作業経過について
- ・ (資料2-別添) 「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」と「ヒント集 冊子 様式案」「ヒント集 リーフレット 様式案」の関係
- ・ (資料2-②) ヒント集 冊子 掲載内容一覧
- ・ (資料2-③) ヒント集 冊子 様式案
- ・ (資料2-④) ヒント集 リーフレット 様式案
- ・ (資料2-⑤) ヒント集に関する今後のスケジュールと活用について (案)
- ・ (資料3) 推進の柱2 「必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」の結果について (報告)
- ・ (資料4-①) 「地域活動者のための個人情報の手引き」について
- ・ (資料4-②) 地域活動者のための個人情報の手引き (素案)
- ・ (資料5) 第4次地域福祉活動計画 リーディング事業進捗報告

平成22年度 横浜市地域福祉保健計画 関連事業取組状況

平成23年3月29日現在

資料1-②

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
策定・推進委員会				委員会①					委員会②				委員会③	
推進の柱1 (「地域づくりをすすめます」)における取組	21年度策定区7区	第2期計画推進												
	22年度策定区11区	第1期計画振り返り、データ分析、地区別懇談会、素案策定等												
	18区共通	各種研修実施、計画策定・推進状況等の情報提供、係長会、担当者会議等での情報交換実施												
災害時要援護者支援事業		要援護者リスト各区に配布	各区ヒアリング	ヒアリングまとめ	要援護者対策見直し検討専門部会、作業部会開催 内容:発災時の要援護者名簿の活用方法、モデル事業の課題整理と23年度以降の事業の方向性等			要援護者リスト各区に配布						23年度以降の事業の方向性の提示
推進の柱2 (「必要な人に的確に支援が届く仕組みを作ります」)における取組	「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」		地域支えあい連絡会の現状把握	地域ケアプラザ等へのヒアリング実施			第1回検討会 地域ケアプラザから担えるネットワークづくり	第2回検討会 これからのネットワークづくり	第3回検討会 報告書案の作成に向けて					検討会報告書作成、委員会へ報告
	一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業(栄区公田町団地地区、旭区旭北地区)	NPO法人・区等による業務実施、区、局、NPO法人との連絡会議		基盤支援候補世帯名簿作成									事業の効果検証、次年度への課題整理	
	民生委員及び包括への個人情報提供	区局内部調整、協議、民生委員等への情報提供方法、具体的活用方法等の検討						民生委員へのアンケート調査、ヒアリング実施、集計・分析				第1回見守り活動検討会	第2回見守り活動検討会	
	地域活動者向け個人情報の取扱手引書作成(市社協が中心となって作成)	一般市民向けのわかりやすい取扱手引書等の収集		第1回検討会	第2回検討会	第3回検討会	第4回検討会	地域活動者向け手引書(案)作成		地域団体、区、社協、ケアプラザ等から意見収集			手引書完成	
推進の柱3 (「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げます」)における取組	分科会(地域活動への参加を増やすヒント集作成)				第1回分科会 進め方等検討	事例収集、ヒアリング実施	事例の整理、検証	第2回分科会 検証具体的な手法検討	ヒント集(案)作成				第3回分科会 ヒント集(案)の検討 ヒント集作成状況を委員会へ報告	
	地域福祉コーディネーター養成研修等の人材育成	コーディネーター養成研修			区域研修(旭、南、神奈川)				コーディネーター養成研修振り返り					次年度以降、新たな区域研修の手法を導入
	コミュニティビジネス講座	地域活動者等を対象とした入門講座 ★(11月30日、12月10日の2回に分けて開催)												
その他	普及・啓発	計画ニュース8号発行			計画ニュース9号発行 職員研究発表会(地域福祉保健計画分科会)			計画ニュース10号発行		計画ニュース11号発行				

資料1-②

23年度 の主な取組
委員会開催(年 3回程度)
第2期計画の推 進
第2期計画の推 進
第2期計画の推 進
取り組む地域の 拡大・地域で把 握する要援護者 の拡充
公的機関業務指 針の作成準備開 始
最終年度として の事業効果の検 証
見守り活動の概 念整理・モデル 地区の取組実施
手引書の発行・ 活用
ヒント集の発行・ 活用のための説 明実施
区域研修を8区 で実施
公的機関職員向 け、地域活動者 向けの講座を実 施
普及・啓発の継 続

平成 23 年度 第 2 期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会の主な議題（予定）**1 第 2 期市計画の中間評価**

平成 23 年度は、第 2 期市計画の中間年度にあたり、中間評価を実施することとしています。平成 21 年度の委員会において、計画の評価方法を検討済みで、計画推進の柱 1～柱 3 における主な取組の進捗状況を確認するための指標を設定し、データ収集を行っているところです。

委員会では、計画の推進状況について、住民参加がどの程度進み、地域の課題を解決するための仕組みがどの程度充実したかといった質的評価とともに、収集した指標のデータを参考に評価するなど、委員会で総合的・多角的に評価します。

2 推進の柱 3 の分科会で作成する「ヒント集」の活用

地域活動の新たな担い手を見つけるとともに、継続的に活動に参加していくためのアイデアや工夫を取りまとめた「ヒント集」（冊子、リーフレット）を完成させ、地域活動者や支援機関に「ヒント集」を活用していただくための、具体的な取組（既存の会議、研修等の機会を使った説明の実施等）を検討し、実施していきます。

3 報告事項、その他**（1）公的機関向け業務指針の作成に向けた検討状況**

「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」の提言を踏まえて、区局・区社協・地域ケアプラザ等の職員による「公的機関向け業務指針（公民ネットワーク形成の業務指針）」の作成に向けた検討状況を報告していきます。

（委員会委員の御協力については、検討状況により、改めて依頼させていただきます。）

（2）民生委員及び地域包括支援センターへの個人情報の提供

市計画に基づき、平成 21 年度に実施した「地域福祉保健活動を推進するための情報共有のルールづくり検討会」の提言を受け、75 歳以上のひとり暮らし高齢者の状況について、民生委員・児童委員、地域包括支援センター及び区福祉保健センターの三者が情報共有し、見守り及び相談支援に取り組めるようにすることを検討しています。検討状況及びモデル地区による取組状況を報告していきます。

（3）その他の第 2 期市計画に基づく取組の進捗状況

- ・一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業
- ・地域の見守りネットワーク構築支援事業
- ・災害時要援護者支援事業
- ・持続可能な活動を増やしていくことを目的とした講座の開催
- ・区、区社協、地域ケアプラザ職員への研修の実施 等

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会(第12回)からのヒント集作成作業経過について

1 全体の流れ

時 期	内 容
平成22年11月	第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会(第12回) ・中間報告 →「人材」という視点からヒント集の内容を再度整理
12月	第2回分科会 ・「幅広い人材を発掘・育成するためのヒント(中間案)」提案
12～1月	中間案に対する意見募集 (意見募集先: 区事業企画担当、区社協、地域ケアプラザ、分科会委員)
平成23年1月	意見集約 ※ 17か所(人)から209件のご意見をいただきました
1～2月	ヒント集(冊子、リーフレット)案作成
3月4日	第3回分科会 ・「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」の内容、掲載様式を提案 →参考となる、具体的な行動・エピソード等をヒアリング内容や分科会委員の協力を得て追加
3月29日	第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会(第13回)

2 「幅広い人材を発掘・育成するためのヒント(中間案)」の主な意見と反映結果

意見を集約した結果を、次のとおりヒント集に反映しました。

主な意見	反映結果
○誰がどの立場でこのヒント集を活用するのかわかりにくく感じた(活動をしたいと思っている人を対象としたものなのか、新たな担い手の発掘・育成に悩んでいる方(既に活動している方)を対象としているのか)。対象者を明確にすることが必要ではないか。	○対象者を、 <u>地域活動者(既に活動している方)</u> を中心とした内容に整理しました。
○具体的なヒントとはなっているが、例えば「参加者の主体性を大切にする」「やる気が高まるような工夫をする」というのは、具体的にどうアプローチしたらいいのかを知りたいのではないか。方法をイメージしづらいものについては、より具体的な事例を掲載するとわかりやすいのではないか。	○「解決に向けた具体的なヒント」とともにその「効果」を記載し、さらに具体的なイメージが持てるように、「解説・コラム等」を設けて、具体的な事例や手法を掲載しました。
○「ヒント」そのものが分かりづらい。実際に地域活動につなげるために活用するものであるなら、もう少し具体的な、「イメージできるもの」であったほうがよいのではないか。	

3 ヒント集(冊子、リーフレット)の作成

(1) 作成にあたってのポイント

ア 視点は、人材の発掘・育成

あくまでも「人材」というテーマからそれないように留意しました。

イ 具体的な事例の掲載

ヒントがイメージしやすくなるよう、解決に向けた具体的ヒント、効果、解説・コラムなどの具体的な事例を掲載しました。

(2) ヒント集 掲載内容の精査

ア 冊子

ヒント集を参考とする方の視点に立ち、よりわかりやすい内容とするために、中間案をベースにしなが、全ての具体的ヒントを再度精査し分類しました。

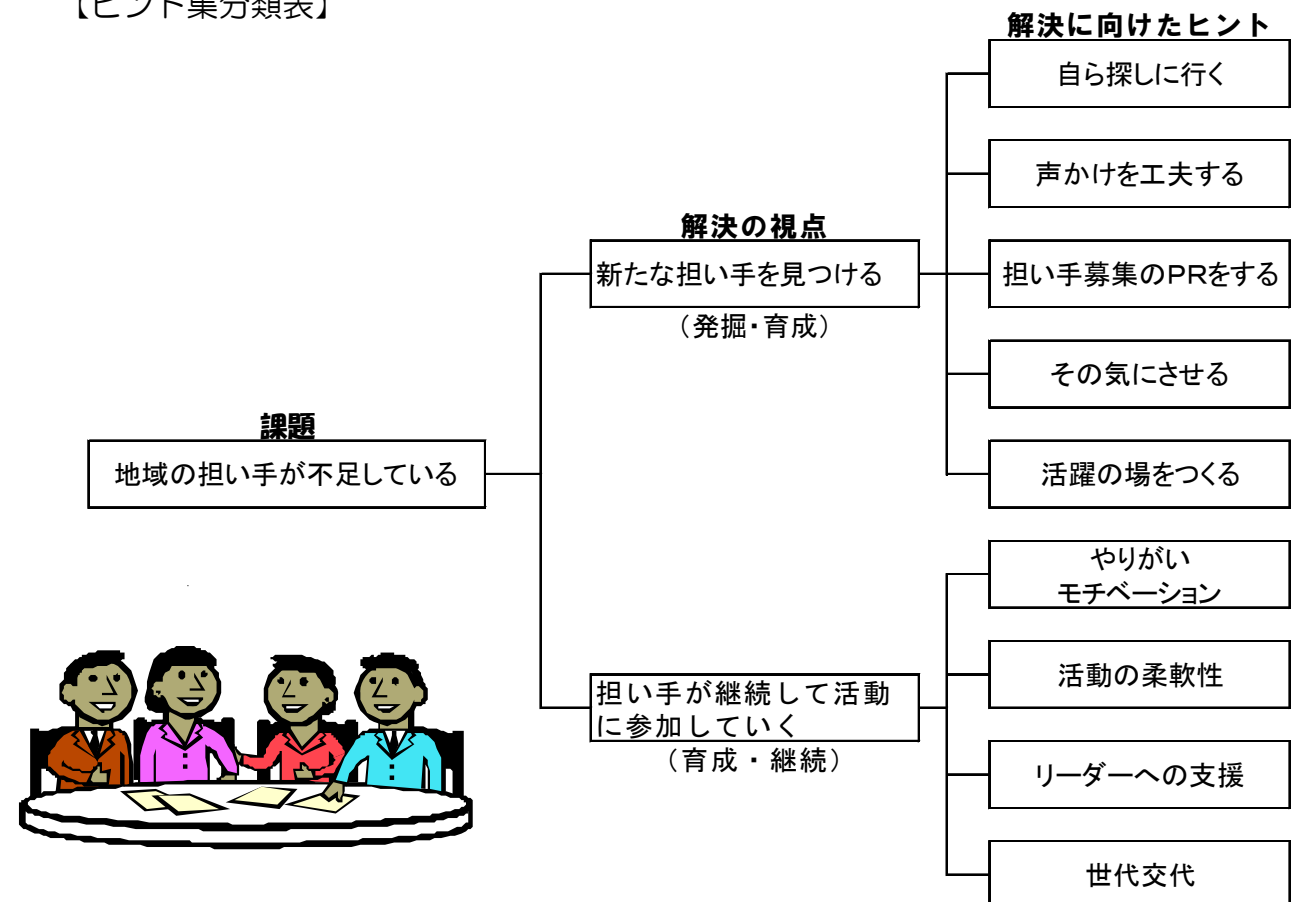
※ 右図【ヒント集分類表】参照。詳細は資料2-②参照。

イ リーフレット

ヒント集冊子に掲載する内容が概ね決まったところで、ポイントを抽出し、リーフレットへ掲載する内容を検討しました。

※ 資料2-④参照

【ヒント集分類表】



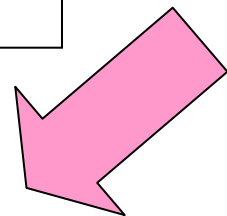
「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」と「ヒント集 冊子 様式案」「ヒント集 リーフレット 様式案」の関係

資料2-別添

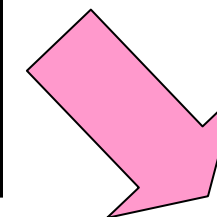
(資料2-②) ヒント集 冊子 掲載内容一覧

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域 の担い 手が不 足して いる	新たな 担い手 を見つけ る	①	自ら探 しに行く	①日常生活で出会う人 やそのついでから、新たな 仲間を見つける (PTA活動、カルチャー センターなどのつながり を通じて)	①直接声をかけた人が 仲間になってくれただけ でなく、他のメンバーや 知り合いにも声をかけを してきて、予想以上に新 たな仲間が増えた(参加 者が増え、広がり生まれ た)。	<p>◎PTA活動やカルチャーセンター等、日常のつながりから、新たな仲間は見つかります</p> <p>PTA活動は自分の子どもに直接関係する活動であり、親の義務感が強く、共通点がある中での集まりなので、そのつながりは強固なものです。こういった日常的なつながりをきっかけとして誘い込むことで、一人だけでなく多数の人を引き込むことができる可能性があります。このような点を意識しながら、声をかけてみてはどうでしょうか？</p> <p>◎学童保育に子どもを通わせている父親からつながる</p> <p>・子どもが学童の時はお父さん同士もつながっていますが、子どもが学童でなくなると同時に、お父さん同士のつながりもなくなってしまうことが多いものです。 会社とは違う、上下関係のないつながりを求めている人も多いはず！と思い、「夏祭りでポップコーンを作って！」とお願いしたところ、お父さんたちが快く手伝ってくれました。また、こういった関係ができてから、青少年指導員や体育指導員を担ってくださるお父さんも出てきました。(「仲手原マザークラブ」より)</p> <p>◎困っているときこそ、近くの人が助けてくれる</p> <p>障害児がいる家族のサポート活動を始めた当初、ボランティアの仲間など周囲の人々や、地域の社会福祉協議会も家族へのサポートの必要性を感じていたため、活動への協力が得られ、NPOとしての活動は自然な流れで始まっていきました。しかしサポートをした</p> <p>いという思いこそあれ、ゼロからのスタート同然でした。当初、社協の存在も、NPOという活動形態も知りませんでした。経営ノウハウも、資金も特別ありませんでした。 しかし、「困っているからこそ助け合いは生まれる」と、主婦友達や子どもの学校のPTA仲間など昔からのなじみの人々が協力をしてくれました。大家さんや市役所職員、税務署の担当者までも協力してくれました。(「NPO法人あいあい」より)</p> <p>◎同じサークルや団体に活動してきたメンバーからを見つける</p> <p>・同じ育児サークルと一緒に子育てしてきたお母さんや、育児サークルリーダーの経験のあるお母さんに声を掛け、自分の新しい子育て支援の活動に協力してもらいました。(分科会 山田委員より)</p> <p>・自分の団体の活動以外に、民生委員としても活動しています。民生委員活動の中で知り合った人が、自分の団体のメンバーに入ってくることがしばしばあります。会社勤めを終え、「何かやりたい」と感じている人は多いと思います。常にそういった情報に敏感であるよう心がけ、声かけを行っています。(「仲手原マザークラブ」より)</p>

※「掲載内容一覧」に書かれている内容を、「様式案」に落とし込んでいきます。



※「掲載内容一覧」に書かれている内容を、「ポイントを集約して「様式案」に落とし込んでいきます。



(資料2-③) ヒント集 冊子 様式案

<p>解決の視点</p> <p>新たな担い手を見つける</p> <p>そのためには、</p> <p>自ら探しに行く</p>	<p>解決に向けたヒント！</p> <p>自ら探しに行く</p>	<p>学童保育に子どもを通わせている父親からつながる</p> <p>子どもが学童の時はお父さん同士も繋がっていますが、子どもが学童でなくなると同時に、お父さん同士の繋がりもなくなってしまうことが多いものです。 会社とは違う、上下関係のない繋がりを求めている人も多いはず！と思い、「夏祭りでポップコーンを作って！」とお願いしたところ、お父さんたちが快く手伝ってくれました。また、こういった関係ができてから、青少年指導員や体育指導員を担ってくださるお父さんも出てきました。(「仲手原マザークラブ」より)</p>	<p>同じサークルや団体に活動してきたメンバーからを見つける</p> <p>・同じ育児サークルと一緒に子育てしてきたお母さんや、育児サークルリーダーの経験のあるお母さんに声を掛け、自分の新しい子育て支援の活動に協力してもらいました。(分科会 山田委員より)</p> <p>・自分の団体の活動以外に、民生委員としても活動しています。民生委員活動の中で知り合った人が、自分の団体のメンバーに入ってくることがしばしばあります。会社勤めを終え、「何かやりたい」と感じている人は多いと思います。常にそういった情報に敏感であるよう心がけ、声かけを行っています。(「仲手原マザークラブ」より)</p>
<p><解決に向けた具体的ヒント></p> <p>①日常生活で出会う人やそのついでから、新たな仲間を見つける (PTA活動、カルチャーセンターなどのつながりを通じて)</p>		<p><効果></p> <p>①直接声をかけた人が仲間になってくれただけでなく、他のメンバーや知り合いにも声をかけてきて、予想以上に新たな仲間が増えた(参加者が増え、広がり生まれた)</p>	
<p>参考となる</p> <p>～具体的な行動・エピソード等～</p> <p>PTA活動やカルチャーセンター等、日常のつながりから、新たな仲間は見つかります</p> <p>※イラスト差し予定</p> <p>PTA活動は自分の子どもに直接関係する活動であり、親の義務感が強く、共通点がある中での集まりなので、そのつながりは強固なものです。こういった日常的なつながりをきっかけとして誘い込むことで、一人だけでなく多数の人を引き込むことができる可能性があります。 このような点を意識しながら、声をかけてみてはどうでしょうか？</p>		<p>困っているときこそ、近くの人が助けてくれる</p> <p>障害児がいる家族のサポート活動を始めた当初、ボランティアの仲間など周囲の人々や、地域の社会福祉協議会も家族へのサポートの必要性を感じていたため、活動への協力が得られ、NPOとしての活動は自然な流れで始まっていきました。しかしサポートをしたいという思いこそあれ、ゼロからのスタート同然でした。当初、社協の存在も、NPOという活動形態も知りませんでした。経営ノウハウも、資金も特別ありませんでした。 しかし、「困っているからこそ助け合いは生まれる」と、主婦友達や子どもの学校のPTA仲間など昔からのなじみの人々が協力をしてくれました。大家さんや市役所職員、税務署の担当者までも協力してくれました。(「NPO法人あいあい」より)</p>	

(資料2-④) ヒント集 リーフレット 様式案

<p>①自ら探しに行く</p> <p>新たな仲間を見つけるために、普段どのような工夫をされていますか？ 言葉のかけ方や声かけ、お誘いなど、具体的な声かけや声かけの工夫を教えてください。</p> <p>◎PTA活動やカルチャーセンター等 日常のつながりの中で、新たな仲間を見つけてみる。</p> <p>◎活動に関する経験や知識、地域イベント等 同じ活動を通じて参加している他団体のメンバーの中から、自分の活動にも参加してもらいたいと思う人を見つけてみる。</p> <p>◎地域のキーパーソンに活動を紹介してもらう 地域内で既にネットワークを築いている人たちに、活動の紹介をしてもらう。</p>	<p>②声かけを工夫する</p> <p>※イラスト差し予定</p> <p>導入文</p> <p>ヒント</p> <p>ヒント</p> <p>ヒント</p>	<p>③担い手募集のPRをする</p>
<p>④その気にさせる、やりがい・モチベーション</p>	<p>⑤活躍の場をつくる</p>	<p>⑥その他</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的なヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	①	自ら探しに行く	<p>①日常生活で出会う人やそのつてから、新たな仲間を見つける(PTA活動、カルチャーセンターなどのつながりを通じて)</p>	<p>①直接声かけをした人が仲間になってくれただけでなく、他のメンバーや知り合いにも声かけをしてくれて、予想以上に新たな仲間が増えた(参加者が増え、広がりが生まれた)。</p>	<p>◎PTA活動やカルチャーセンター等、日常のつながりから、新たな仲間が見つかります</p> <p>PTA活動は自分の子どもに直接関係する活動であり、親の義務感が強く、共通点がある中での集まりなので、そのつながりは強固なものです。こういった日常的なつながりをきっかけとして誘い込むことで、一人だけでなく多数の人を引き込むことができる可能性があります。</p> <p>このような点を意識しながら、声かけをしてみてくださいはどうか？</p> <p>◎<u>学童保育に子どもを通わせている父親からつながる輪</u></p> <p>・子どもが学童の時はお父さん同士もつながっていますが、子どもが学童でなくなると同時に、お父さん同士のつながりもなくなってしまうことが多いものです。会社とは違う、上下関係のないつながりを求めている人も多いはず！と思い、「夏祭りでポップコーンを作って！」とお願いしたところ、お父さんたちが快く手伝ってくれました。また、こういった関係ができてから、青少年指導員や体育指導員を担ってくださるお父さんも出てきました。(「仲手原マザークラブ」より)</p> <p>◎<u>困っているときこそ、近くの人が助けてくれる</u></p> <p>障害児がいる家族のサポート活動を始めようとした当初、ボランティアの仲間など周囲の人々や、地域の社会福祉協議会も家族へのサポートの必要性を感じていたため、活動への協力が得られ、NPOとしての活動は自然な流れで始まっていきました。しかしサポートをしたいという思いこそあれ、ゼロからのスタート同然でした。当初、社協の存在も、NPOという活動形態も知りませんでした。経営ノウハウも、資金も特別ありませんでした。</p> <p>しかし、「困っているからこそ助け合いは生まれる」と、主婦友達や子どもの学校のPTA仲間など昔からのなじみの人々が協力をしてくれました。大家さんや市役所職員、税務署の担当者までも協力してくれました。(「NPO法人あいあい」より)</p> <p>◎<u>同じサークルや団体に活動してきたメンバーからを見つける</u></p> <p>・同じ育児サークルと一緒に子育てしてきたお母さんや、育児サークルリーダーの経験のあるお母さんに声を掛け、自分の新しい子育て支援の活動に協力してもらいました。</p> <p>・自分の団体の活動以外に、民生委員としても活動しています。民生委員活動の中で知り合った人が、自分の団体のメンバーに入ってくれることがしばしばあります。会社勤めを終え、「何かやりたい」と感じている人は多いと思います。常にそういった情報に敏感であるよう心がけ、声かけを行っています。(「仲手原マザークラブ」より)</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	①	自ら探しに行く	②機会を見つけて、担い手となりうる方をヘッドハンティングする。 (研修や講座など同じ目的を持って参加している仲間が集まる機会、地域のイベントへの参加、自治会町内会活動への参加等を通じて)	②自分の目で見て自分から声をかけ、相手にも理解してもらった上でヘッドハンティングをした結果、積極的に参加してくれる方が増えた。	◎ <u>ヘッドハンティング</u> 他の活動団体やメンバーの中でこの人来てもらいたい、という人を見つけて声をかけていくことも一つの方法です。その人の性格や特徴を既によくわかっているし、自分の活動に参加してもらう上でも安心です。研修や講座、地域のイベント、自治会町内会活動など、自分と同じような活動をしている人と出会う機会は少なくないと思います。普段からそういった人たちと情報交換をすることで、活動にも広がりが出るのではないのでしょうか？
				③自治会町内会の会長等地域のキーパーソンにお願いして、地域に活動を紹介し、認知してもらう	③地域のキーパーソンや地域から認知されている力は大きく、協力しようという方々が多数集まった。	●(解説)地域のキーパーソンとは？ 地域内の様々な団体の代表をしている人や、地域で活動をする上で中心を担っている人物のことを言います。具体的には、 ○自治会・町内会会長 ○地区社会福祉協議会会長 ○民生委員・児童委員 等が挙げられます。 ◎ <u>地道にキーパーソンとの関係を築く</u> 自分の活動団体を立ち上げた当時から、地域の連合町内会や、民生委員等には挨拶に行っています。最初はよそ者扱いされたこともありましたが、コツコツと交流会を開催したり、町内会の祭りに参加したりして、関係を築いてきました。今では自分の活動に理解を示していただき、活動をする上で協力していただいています。(「NPO法人ワーカーズわくわく」より) ◎ <u>活動を立ち上げる際にPRし、理解してもらう心がける</u> 地域で異世代交流サロンを立ち上げ運営する際に、町内会の会合に出席し、地域の皆さんへの理解と協力を得ました。町内会の方々だけではなく、地域で他の福祉関連のNPOの活動をしている方々も応援してくださり、結果、多くの人々の協力を得ることができました。

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的なヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	②	声かけを工夫する	①不安や疑問を解消するために、活動に誘う際、参加者の関わりやメリットが具体的にイメージできるように説明する	①活動の条件、コンセプトに賛同してくれる人が集まり、継続した活動への参加につながった。参加することの利点を明確にすることで、それならば、と参加してくれる人も多かった。	<p>◎ウェルカムミーティングの実施</p> <p>・ウェルカムミーティングの実施を通じて、新規転居者の方々とのコミュニケーションを必ず行い、活動について理解してもらうようにしています。当自治会独特の方法であり、少し強引な方法ですが、「自治会に6,000万の貯蓄があり、自治会に加入しないと一世帯あたり約4万円の権利を放棄することになる」と説明すると、加入への動機付けの一助となることもあります。（「湘南桂台自治会」より）</p> <p>◎経験が生かされることを説明する</p> <p>・主に主婦の方々に集まっていただき、子育て支援の活動をしています。新しく参加してもらう主婦の方には、利用者（当事者）のニーズに応えられる働き方がここにはあり、主婦・子育ての経験が、大きく活かされるということをお話しています。労働時間も、隙間の時間を有効に使いながら活動できることを説明しています。主婦だからこそ、助け合える、支え合えることを大切にしています。</p> <p>◎オリエンテーションの実施</p> <p>・スタッフが新しく入ってくるときには必ずオリエンテーションを行い、団体の理念・基本等を丁寧に伝えるようにしています。（「～してあげる」と言わない、「自分が何をしたか」ではなく、「利用者がどうだったか」が大事 等）</p> <p>◎まずは自分の地域を知ってもらうところから</p> <p>「安全・安心街づくり講座」を開催し、自分の住んでいるところを知ってもらうことから始めています。このようなプロジェクト的な仕掛けの中で、自分たちの活動についても情報提供し、理解してもらう機会を作っています（「さわやか港南」より）。</p> <p>◎活動の内容が自分にとっても相手にとっても必ずプラスになる</p> <p>たとえイベントのごみ回収係のような活動でも、必ず楽しかったり、知り合いができたり、達成感があったりと、自分にとってプラスになるからやっています。そのことを自信をもって相手にも伝えることが重要だと思います。</p> <p>◎ときにはこんなやり方も</p> <p>高齢者の介護等の活動をしています。正月などは時期的に需要はあるのに、どうしても対応できるスタッフが少ないことが頻繁にあります。そこで賃金を倍額にしたところ、対応できるというスタッフが増えたことがありました。参加者のメリットが明確に見えるような、単純な仕掛けがが功を奏することもあると思います。</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	②	声かけを工夫する	②自治会町内会の会長等地域のキーパーソンから活動参加への声かけをしてもらう	②地域のキーパーソンが既に持っている幅広いネットワークを活用してくれて、様々な人が集まった。	
				③自治会町内会の会長等地域のキーパーソンを活動に巻き込む	③頼りにすることで積極的に参加してくれる人も多く、もともとの人材や情報のネットワークも活用してくれて、活動のプラスになる部分が多かった。	
				④担い手となりそうな人の情報をこまめにメモをし、その情報をもとに声をかける	④情報を細かくメモをしていたことで、その人の希望に合った活動につなげられ、継続的な関わりを持てるようになった、	

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的なヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	②		⑤活動団体の名称を親しみやすく、何をしている団体なのかわかるように工夫する	⑤以前の名称では反応が薄かったが、何をやっている団体なのかと興味を抱いてくれる人が多くなり、参加してもらえらるきっかけになった。	<p>◎活動団体の名称を工夫する</p> <p>目に入ってくる名前一つで、興味が湧くかどうかどうかも変わってきます。また逆に、何をしている団体が見ればわかるような名前にすることも工夫の一つでしょう。</p> <p>・『老人クラブ』→『シニアクラブ』等、活動名称を変更して興味を喚起させる工夫をしています。(「湘南桂台自治会」より)</p> <p>・私の団体は、『マザークラブ』と名乗ってはいるが、ボランティアで毎日来てくれている男性もいます。男性が増えてきており、みな非常にいきいきと活動しています。団体の名称については検討の余地があるかもしれません(「仲手原マザークラブ」より)</p>
			声かけを工夫する	⑥活動の受け手(利用者)も将来の担い手になり得るので、そのような視点で利用者に声かけをしてみる	⑥活動の受け手から担い手になったときに、受け手の立場に立って考え活動ができるようになった。	<p>◎活動の受け手(利用者)も担い手になり得る</p> <p>・障害児の一時預かりの活動の中での出来事です。障害児を預かり、その間その子どもの母親がヘルパーの資格を取得しました。その後その母親に自分たちの活動を手伝ってもらおうと、「自分だけが不幸だと思っていたが、世界が広がった」と言って、喜んで手伝ってくれたことがあります。そのような、活動の受け手(利用者)が担い手になる場面を今まで何度も見てきました。活動の受け手と担い手は別ではありません。どちらにもなり得るものです</p> <p>・あらゆる困り事の相談に乗る活動を行っていくうちに、サービスを利用している方がお互いに助け合おうという気持ちになってくださり、スタッフになってくれたり、ボランティアを買って出てくれたりと徐々に活動を支えてくれる人材が増えていきました。生活に密着した活動であることがポイントではないかと思います。(「さわやか港南」より)</p> <p>・認可外保育施設を運営しています。施設の利用者であったお母さんが、その後子どもが大きくなり、今度は担い手として参加してくれます。若い世代が活動に加わるきっかけにもなっています。また、当法人のもう一つの事業である高齢者の介護支援をきっかけに、その後支援する側になったスタッフも多いです。</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	③ 担い手募集のPRをする		①地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等を活用または協力を得てPRする	①地域ケアプラザ等の支援機関から、様々な情報提供や相談支援が受けられ、活動を希望する方の紹介を受けることにつながった。また、チラシを見て、興味がある、やってみたいという人が現れた。	◎地域の活動を支援する機関を活用する ・地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等、地域には地域活動を支援する機関が数多く存在します。何か活動をしたいと考えて訪れる人も少なくありません。そういった機関を活用し、また協力を得て活動のPRをすることで、新しい担い手が現れる可能性は高くなります。まずは、ご自分の地域の地域ケアプラザ等に相談してみてもいいでしょうか。きっと活動の手助けになると思います。(※参考資料〇ページ参照) ・地域ケアプラザのコーディネーターが持つ人脈や、地域ケアプラザのボランティア交流会などを通して、地域のいろいろな活動者とつながり、活動を発展させる機会にもなりうると思います。
				②コンビニに募集を掲示する	②様々な年齢層の人々からの問い合わせがあった。	◎地道な情報発信、PR ・活動内容や活動報告を地域に発信することはとても重要です。すぐに反応が無くても、地域にこういった活動があると認知してもらうこと自体が、活動参加のきっかけになります。<解決に向けた具体的ヒント>にあるとおり、情報発信の方法は様々です。もしも自分たちの活動に対する地域の反応が薄いと感じるのであれば、今までとは違う情報発信の方法で実践してみてもいいでしょうか。 ・子育て支援の活動をしていますが、口コミと人脈は活動のPRをする上で大きな助けとなります。地域で保育士資格を持つ方や、放課後児童クラブの経験者など、人とのつながりの中で、新たな人材を見つけることができます。
				③口コミを行う	③話を聞いた相手が知人ということで、安心して参加してくれる人が多かった。	◎PR後のフォローも大切に ホームページでは常に募集告知を掲出していますが、あまり活動の内容を理解せずにいらっしゃる方も多く、趣旨や理念、活動スタイルを理解してもらうまで時間がかかることもしばしばありました。現在では1～2日程度の活動体験の機会(お見合い期間)をもつようにしています。
				④チラシのポスティングを行う	④募集だけでなく、活動自体のPRもでき、認知度が高まった。	◎若い世代の参加 ウェブ上の活動PR媒体(ホームページやブログ)を見て、ボランティアを名乗り出てくれる学生がいました。既存の地域内の広報媒体だけではPRしきれない世代については、こういった方法も有効だと思います。
				⑤具体的な活動内容を明示して、自治会町内会の協力を得て、チラシ、リーフレットの回覧等によりPRする	⑤活動内容がすでにある程度認知されていることにより、新しい参加者への説明がしやすくなった。	
				⑥活動情報を積極的に発信することにより理解者を増やし、あわせて募集のPRをする	⑥活動情報を見て、面白そうだと興味を持ってくれる人が現れた。	
				⑦様々な媒体を活用する(ブログ、ホームページなど)	⑦今まで地域とかかわりが薄かった方、接点がなかった方からの反応があり、新たな人材の発掘につながった。	

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	④	その気にさせる	<p>①「ありがとう」「助かった」など感謝の気持ちを伝える</p> <div data-bbox="481 646 622 853" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 下記「やりがいモチベーション」の①②と具体的ヒントが同じ内容になります。(効果は異なります) </div>	<p>①あまり参加に積極的ではなかった方でも、感謝を言葉で伝えるととても嬉しそうにしてくれた。活動に貢献できた、喜んでもらった、と実感してもらえた。</p>	<p>◎活動後の振り返りを大切に</p> <p>成果ややりがいを実感できるかどうかは、活動を継続する上でとても重要なことです。感謝の気持ちを直接伝えたり、活動の振り返りを一緒にすることで、やりがいを実感できる場面を多くつくれるよう心がけてはいかがでしょうか。</p> <p>◎感謝の気持ちを伝える</p> <p>・日常の活動の中で、ひとつひとつお互いに感謝の気持ちを伝えあったり、スタッフミーティングにおいて、それぞれの活動を振り返りながら、気持ちを分かち合うことを大切にしています。</p> <p>◎活動のやりがい</p> <p>・障害児がいる家族のサポート活動をする中で、活動の受け手(利用者)のニーズがあり、それに対応しているという、何かしらの実感が持てるからこの活動を続けられていると思います。(「NPO法人 あいあい」より)</p> <p>◎必ず面接やオリエンテーションを行う</p> <p>知り合いの紹介やある程度関係のある人でも、馴れ合いのお手伝いではなく、必ず面接やオリエンテーションを1時間程度行い、じっくりと向かい合うことで意識を高めてもらうよう努めています。</p> <p>◎ボランティアスタッフの交流研修会を1日プログラムで実施</p>
				<p>②ともに活動したことの意味や成果を言葉で表し、ともに思いを共有する</p>	<p>②自分が参加したことでの成果ややりがいを実感することにつながった。</p>	<p>自分たちの活動についての報告やワークショップ等を通して、各々の日常の活動以外の様子を知ったり、意義を再確認したり、他者の考えを聞いたりする中で、モチベーションの維持や向上が図れています。</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	⑤	活躍の場をつくる	<p>①事前に一人一人の得意分野や経験を聞き取り、活動に活かせる場や機会につなげる</p>	<p>①適材適所での活動参加に結び付けることにより、継続した参加につながり、また活動参加を通じて、新たな役割を見出すきっかけにもつながった</p>	<p>◎<u>特技や経験を活かしてもらう</u></p> <p>その人の特技や、これまでの人生で培ってきた技術や知識は活動団体にとって重要な財産です。ご自分の団体の中でこのような活動者の財産を活かしてもらえるような場がないか考え、活動者にとっても、ご自分の団体にとっても相乗効果となるような体制づくりを心がけてはいかがでしょうか。</p> <p>◎<u>スキルとマネジメントを分ける</u></p> <p>・団体の運営について、スキルとマネジメントを分離するシステムを取っています。組織の役員等執行部が団体運営等のマネジメントを重点的に行うことで、参加者が自分の専門的スキルをいかんなく発揮できるように環境整備を行っています(「湘南桂台自治会」より)</p> <p>◎<u>あなたの特技は？</u></p> <p>・活動に参加してもらう際、はじめに得意な分野や特技を聞き、また、やってみたい活動も聞いてみるようにしています。スタッフそれぞれの得意な部分を活かせるような活動の場をつくり、役割を与えています。役割を与えたからといって、任せきりにするのではなく、必要に応じて相談や調整にも協力するよう心がけています。</p>
				<p>②「スター誕生方式」・・・まず参加者が格好良く見える場面(スターとなれる場面)での協力をお願いします。</p>	<p>②参加した方の子どもが、活躍する場を見て喜んでくれて、参加者自身も嬉しそうだった。そういったことがきっかけとなって、活動に関わろうと思う方も出てきた。</p>	<p>◎<u>スター誕生方式</u></p> <p>仕事をしている子育て中の年代の人々にとって、最初から活動全てに参加してくれというのは負担が大きいものです。例えばもちつき大会のもちつきの場面とか、子どもにとって親が格好良く見える場面だけをまずお願いしてみるのはいかがでしょうか。子どもが喜ぶのであれば、と参加してくれる親は多いと思います。</p>
				<p>③お祭りやイベント等で男性や若い世代の力を活かした場をつくる</p>	<p>③男性や若い世代の方が適している仕事もあり、責任感とリーダーシップを持って参加してくれた。</p>	<p>◎<u>男性の参加</u></p> <p>一般的に、地域活動に男性を引き込むことについては難しいと思われがちです。しかし、明確に役割や責任を与えた上で協力をお願いしますと、リーダーシップをとって積極的に関わってくれる男性も多いようです。依頼の仕方によっては、大きな力になるはずですよ。</p> <p>・男性に活動参加を呼び掛けるときは、最初は「ちょっとボランティアをする」ぐらいの感覚で構わないと思っています。気軽に入ったり辞めたりできるくらいが参加者にとっても良いのだと感じています。(「仲手原マザークラブ」より)</p> <p>◎<u>若い世代の参加</u></p> <p>高校生や大学生でも、交流会、イベント等で役割をもってもらい、ある程度責任をもって活動に取り組めるようにしています(例：広報担当、対外的な交渉役、備品担当、ちらしづくりなど)。何のためのイベントなのか、ということが単なるお手伝いだけでは感じられません。準備から振り返りまでしっかり行ってこそ満足感や達成感、手ごたえが感じられ、それを一緒に共有することが重要です。責任があるからこそ考え、工夫するものです。</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	⑤	活躍の場をつくる	④参加しやすい雰囲気づくりを仲間とともに話し合う	④活動者一人一人が活動団体の雰囲気や、新しい参加者の受入体制について考えてくれて、実際に団体内に良い雰囲気が広がった。	<p>◎参加可能な日時を調整(考慮)する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動日として、金曜日が月2回、月曜日が月1回、火曜日が月1回開催としています。病院に通院されている参加者のために、同一曜日にしてしまうと参加できなくなってしまうための配慮です。(「仲手原マザークラブ」より) ・常勤スタッフも含め、毎月出席できる時間、日を記入し提出してもらい、理事たちが集約して月々のシフトを決めています。時間単位でどの程度参加が可能か、というところまで細かく記入してもらっているので、スタッフにとって無理が少ない。これをずっと続けていることが、活動が続いている要因のように思います。 <p>◎あくまで参加者の意向を尊重する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数決は反対派の意見を押し切ってしまう。当団体では、何かを決めるときはじっくりと話し合い、全員一致で決めるように心がけています。(「泉区下和泉住宅自治会」より) ・活動は自主性・自発性が重要です。メンバー同士が「お互い様」。これが長く続く秘訣です！(「仲手原マザークラブ」より)

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	④	やりがいモチベーション	<p>①「ありがとう」「助かった」など感謝の気持ちを伝える</p> <div data-bbox="472 544 616 927" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>上記「その気にさせる」の①②と具体的ヒントが同じ内容になります。(効果は異なります)</p> </div>	<p>①感謝の気持ちによって、自分の参加が必要だと実感してくれる人が多く、継続して活動をしていくモチベーションにつながった。</p>	<p>◎感謝の気持ちを積極的に伝える</p> <p>・やりがいや、自分が参加したことでの影響が実感できるから活動を続けているという人は少なくないようです。タイミングを見計らいながら、その人が活動に参加していることの意味を実感できるよう心がけることが大切です。</p> <p>・ちょっとしたことでも「ありがとう」と感謝の気持ちを口に出したり、ねぎらいの言葉をかけることが大切です。(「仲手原マザークラブ」より)</p> <p>・毎日の活動の中で、感謝を伝えあい、スタッフミーティングにおいても互いに伝えあうことを大切にしています。</p>
				<p>②ともに活動したことの意味や成果を言葉で表し、ともに思いを共有する</p>	<p>②活動を通して感じたことを発信する場があり、息抜きや次回参加へのきっかけにつながり、継続的に参加してくれるようになった。</p>	<p>◎思いを受け止め、お互いを理解する</p> <p>活動を通じて、これが楽しかったとか、あるいはこれが上手いかなかった、楽しくなかった等の不満もあるでしょう。そういった思いをしっかり受け止めて、お互いを理解していくことが大切です。活動者本人の負担の軽減にもなりますし、よりよい活動を行う上での参考にもなると思います。</p> <p>◎活動の愚痴にも耳を傾ける</p> <p>ボランティア活動をした方から、活動先での愚痴を聞くことも必要です。丁寧に傾聴することで、また次も活動に参加してくれることが多くあります。また、活動先の環境整備の必要性に気付くきっかけになることもあります。当方の会長から事前に活動先に話を調整するなど、活動しやすい環境づくりを進めることも大切です。(「仲手原マザークラブ」より)</p> <p>◎スタッフ同士の情報交換を大切に</p> <p>スタッフ同士の情報交換を、とにかく頻繁に行っています。スタッフはヘルパー部門、ケアマネージャー部門、デイサービス部門等いくつかの部門に分かれて活動しており、各部門ごとに部門会を開き、情報交換を行っています。さらに、月1回全体会を行い、部門を越えた情報交換を行っています。また、何人かで1人の利用者を担当しており、随時情報交換をして利用者の状態を把握しているので、何かあっても他のスタッフに相談しやすい、という安心感があります。スタッフが一人で悩みを抱え込まないようにしています。</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	④	やりがいモチベーション	③頼りにする	③自分を信頼してくれたことや、やりがいを実感でき、担い手の活動継続のモチベーションが高まった。	<p>◎信頼して任せる</p> <p>・会計担当や、スタッフのシフトの担当等、各スタッフに担当を任せています。各々が、各々のやることに口を出さないようにしています。その人が来たときに、その人にしかできないことをしてもらうことが重要です。定例会では、各担当から仕事の状況を報告してもらっています。</p> <p>信頼して任せることで、一人一人が責任をもって主体的に活動してもらえるようになります。 (「NPO法人あいあい」より)</p> <p>・役割を与えることにより、活動への主体性が高まり、責任感をもって活動ができるようになり、全体が見えてくるきっかけにもなります。</p>
				④学びの場を設ける	④学習したことを活かす場が欲しくなり、活動や活動内容の検討にも積極的になってくれた。	<p>◎活動しながら学び、皆で共有する</p> <p>定期的に外部の施設研修や、勉強会への参加、レポートと報告会を行い、全員で共有しています。学びの場の情報にアンテナをはり、スタッフに知らせることも大事です。 学んだことを自分たちの活動に活かしたり、活動の改善につなげています。</p> <p>◎資格を取得して強みをもつ</p> <p>平成13年に活動を法人化した後、スタッフがすぐにケアマネジャーの資格を取得しました。それまでは、利用者に寄り添い、状況をよく把握しているのは自分たちなのに、利用者の担当のケアマネジャーの言ったとおりにしかできない状況でした。利用者の状況と意思を確認しながら、自分たちでケアプランを立てられるのも、強みの一つになりました。</p>
				⑤担い手の地域に対する思いを尊重する	⑤地域をこうしたい、という思いをよく話してくれるようになり、その思いが活動の継続につながった。	

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	④	やりがいモチベーション	⑥地域の課題に気づき、活動の意義・意味を実感できるようにする(アンケート、まち歩きなど)	⑥活動の意義・意味を認識することでやりがいを感じ、継続的な活動参加につながった。	<p>◎アンケートやヒアリングを活用する</p> <p>利用者を対象としたアンケートやヒアリングを行い、その結果をスタッフの皆で共有しています。アンケートやヒアリングの結果を受けて皆で話し合う中で、活動の意義ややりがいを感じる事ができ、モチベーションの維持と課題の発見につながっています。</p>
				⑦節目ごとに仲間うちで表彰する	⑦自分のこれまでの努力や成果が実感できることで、楽しさや達成感が生まれた。	<p>◎活動参加〇〇周年表彰</p> <p>活動者が活動に参加して何か月、何年等の節目に、表彰を行っています。普段どういったことを頑張っているかなどを褒め称え、しっかり見ていることをアピールするようにしています。普段からその人を見ていないとできないことであり、活動者にとっても大きな励みになっています。</p>
				⑧タウンニュースや新聞などで活動を紹介する	⑧ ⑦とほぼ同じ	<p>◎活動の成果が見えるようにする</p> <p>・自分たちが取り組んでいる活動が具体的な紙面などで表される喜びは大きいものです。それらを見ることで、活動に参加する楽しさが増え、励みにもつながります。また、多くの人に活動の魅力が伝わり、活動の活性化にもつながるでしょう。タウンニュースや新聞などに掲載してもらえるよう、適宜こちらから働きかけることが有効です。</p> <p>・ブログやおたよりの発行によって、活動を目に見える形で表現しています。</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	④	やりがいモチベーション	⑨楽しい雰囲気づくりをする(悪口がでない雰囲気づくり)(←雰囲気づくりは柔軟性のところ?)	⑨担い手同士が協力しながら継続して活動に参加していくことにつながった。	<p>◎団体の雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・否定的な意見ばかりが出るような雰囲気では、活動者の自主性や継続性は育ちません。活動者の人格や意見を尊重し、積極的に楽しみながらできる雰囲気づくりが大切です。お互いの思いを共有し、何でも言える信頼関係をつくることが重要です。 ・受け手(利用者)からの言葉や、笑顔、元気になった姿が一番のモチベーションとなっています。そのことを皆で共有しています。

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	⑥（その他）	活動の柔軟性	①活動内容を固定化せず、自由さや柔軟性をもたせる	①担い手の精神的負担が少なく、気楽に継続的に参加できるようになった。	<p>◎ゆるやかな活動のスタンスを示す</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動(ボランティア)は義務ではなく、「できることをできる時にやればよい」というゆるやかなスタンスをもっています。特にこれといった規則はありません。義務感を持たないようにするためにも、活動者の出欠はとっていません。活動(ボランティア)を義務化すると負担になり長続きしないことがあります。(「脳イキイキ教室サポーターの会」より) 活動に入る時間帯を決める際、個人の事情も尊重できるよう、活動者の意向を確認し、できる限り考慮しています。 <p>◎担い手にとってのハードルを高くしない</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動に興味のある方には、活動を見てもらい、そのうち参加につながる 경우가多くあります。参加してもよと考えている方の気持ちを柔軟に受け止めて、つなげるという過程をゆるやかにやっていくことがポイントです。参加することへのハードルが高くなるないようにしています。(「さわやか港南」より)
			活動の柔軟性	②活動に完璧さを求めるのではなく、活動しながら担い手とよりよい方法を考えていく	②担い手との意思疎通もでき、合意形成をしながらより継続性の高い活動実施につながった。	<p>◎担い手とのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 定例会等、メンバー全体で報告や意思疎通を図る場を設けることは非常に重要です。メンバーと話しながら、よりよい形に活動形態を変えていくことも、活動を継続する上では必要です。 毎日のミーティング、月に1度のスタッフミーティングを大切にしています。ミーティングの内容は記録を取り、参加できなかった人にも必ず伝えて共有しています。 <p>◎目指す地域や社会をイメージする</p> <p>人材を集めるための声かけではなく、自分たちが目指す地域や社会へのステップを、様々な方法で共感してもらうことの繰り返しで、気がつくと、地域の人材に気づき、関係ができていくように思います。人材獲得が目的になるようではうまくいかないと思います。</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	⑥（その他）	リーダーへの支援	①リーダーを支える仲間をつくる、育てる	①リーダー自身の負担が減り、担い手も「リーダーを支える役割」を認識し、それによって次のリーダー育成にもつながった。	<p>◎<u>リーダーを支える仲間をつくる</u></p> <p>活動の規模が大きくなってくると、リーダー1人での管理が難しい場合があります。管理面において、大きな役割を安心して任せられる仲間を、日頃から意識して育てていくことも重要です。</p> <p>・自治会に基づいている組織である「あやめ会」や「福祉の会」のスタッフが下支えをしてくれています。何か新しいことをやろうというときに、リーダーはもちろん必要ですが、そのリーダーを支えてくれる人々がいることが何より大きいのです。（「泉区下和泉住宅自治会」より）</p> <p>◎<u>お互いの支え合いの気持ちを大切に</u></p> <p>・あらゆる困り事の相談に乗る活動を行っていくうちに、利用している方がお互いに助け合おうという気持ちになってくださり、スタッフになってくれたり、ボランティアをかってでてくれたりと、徐々に活動を支えてくれる人材が増えていきました。生活に密着した活動であることがポイントかもしれません。（「さわやか港南」より）</p>
				②地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等から相談支援等を行う	②担い手の活動継続に向けた様々な相談支援が受けられた。	

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	<参考となる、具体的な行動・エピソード等>
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	⑥（その他）	世代交代	①任期等を決め、リーダーや担い手の世代交代をルール化する	①ルール化により、リーダーは、次のリーダーの育成も視野に入れながら活動を進めるとともに、各々の担い手は、自然な流れで世代交代を意識して、新たな担い手の発掘と育成に取り組むことにつながった。	<p>◎世代交代をルール化する</p> <p>・75歳までは自治会以外の活動にも参加してもらい、75歳を過ぎたら自治会内でのボランティア活動のみをお願いする等、活動に年齢制限を設けている団体もあります。思い切った方法ではありますが、交代のルールが明確であることは、継続して担い手が参加する1つの方法かもしれません。</p> <p>◎任期制と”天下り”の活用</p> <p>自治会長と副会長が2年に1回交代するシステムを取っています(連続2期まで就任可能)。また、自治会役員を務めた人は、その後、関係団体の委員を引き受けてもらうなど、地域の活動に参加してもらうようにしています。私たちの地域では、これを”天下り”と呼んでいます。これには、活動目的やノウハウ等についても継承されていくというメリットがあります。 会長職は自治会を南北で分けて、交互に選出して偏りが出ないように配慮しています。 (「湘南桂台自治会」より)</p> <p>◎普段の活動を通じて引き継ぐ</p> <p>活動者の中で、コーディネーターの役割を担っている人の負担が大きくなっている現状です。コーディネーターの後継者は、日頃の活動から何人か見つけています。特別な研修などはなく、一緒に活動しながら受け手(利用者)ともふれあう中で、コーディネーターとしての動き方を肌で感じて学んでもらっています。 (「さわやか港南」より)</p>

地域活動者に耳より情報!

新たな担い手
を見つける!

担い手が継続して
活動に参加していく!

ヒント集

(冊子案)

※デザインは調整中、リーフレットのキャッチ
コピー（文言）との調整必要

平成23年〇月

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会

横浜市健康福祉局福祉保健課／横浜市社会福祉協議会

目次

1 新たな担い手を見つける、その担い手が継続して活動に参加していくためのヒント

(1) 新たな担い手を見つける

- ア 自ら探しに行く
- イ 声かけを工夫する
- ウ 担い手募集のPRをする
- エ その気にさせる
- オ 活躍の場をつくる

(2) 担い手が継続して活動に参加していく

- ア やりがい モチベーション
- イ 活動の柔軟性
- ウ リーダーへの支援
- エ 世代交代

2 参考資料

- (1) 支援制度（助成金など）の紹介、相談先等
- (2) ヒアリング先一覧表、参考資料
- (3) ヒント集作成までの検討経過（今後作成予定）

はじめに

～このヒント集のコンセプト～

地域では、自治会町内会、ボランティア団体等によって、さまざまな活動が実施されていますが、活動を支える担い手の不足、後継者の育成といったものが、活動されている方の悩みとしてあげられます。具体的には、新しい担い手をどのように見つけていくか、活動参加のきっかけをどのようにつくっていくか、また、活動に継続して参加してもらい、活動を継続・発展させていくためにはどうしていけばいいか、といったことがあげられると思います。

一方で、“何かをしたい、地域の役に立ちたい、自分のできることは何か”といった思いを持っている方はたくさんいます。

そこで、その方々の思いや意欲を大切にしながら、地域活動参加へのきっかけづくりや、継続的な参加につながっていくようにしていくためには、どのようにしたらよいかということ、さまざまな事例や活動者からのヒアリングを基にし、悩みを抱える方の視点にたってこのヒント集にまとめました。

また、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会（区ボランティアセンター）、区民活動支援センター等の活動を支援するみなさまにとっても、地域活動をしている方からの相談に対する支援方法を考える際の参考となるよう作成しています。

このヒント集がきっかけとなり、多くの方が地域活動に参加し、さまざまな活動が生まれ、続いていき、誰もがいきいきと暮らしていける地域づくりにつながっていくことを願っています。

1 新たな担い手を見つける、 その担い手が継続して活動に参加していくためのヒント

構成は、

○新たな担い手を見つける

○その担い手が継続して活動に参加していく

} ためのヒント

2つの視点から見た

解決に向けた具体的ヒント、効果等

からなっています。

解決の視点

新たな
担い手を
見つける

||| その
ためには、

解決に向けたヒント!

自ら探しに行く

<解決に向けた具体的ヒント>



- ①日常生活で出会う人やそのつてから、新たな仲間を見つける
(PTA活動、カルチャーセンターなどのつながりを通じて)

<効果>

- ①直接声かけをした人が仲間になってくれただけでなく、他のメンバーや知り合いにも声かけをしてくれて、予想以上に新たな仲間が増えた(参加者が増え、広がりが生まれた)

参考と
なる

~具体的な行動・エピソード等~

PTA活動やカルチャーセンター等、
日常のつながりから、新たな仲間は
見つかります

※イラスト差込予定

PTA活動は自分の子どもに直接関係する活動であり、親の義務感が強く、共通点がある中での集まりなので、そのつながりは強固なものです。こういった日常的なつながりをきっかけとして誘い込むことで、一人だけでなく多数の人を引き込むことができる可能性があります。

このような点を意識しながら、声かけをしてみてもはどうでしょうか？

学童保育に子どもを通わせている父親からつながる輪

子どもが学童の時はお父さん同士も繋がっていますが、子どもが学童でなくなると同時に、お父さん同士の繋がりもなくなってしまふことが多いものです。

会社とは違う、上下関係のない繋がりを求めている人も多いはず！と思い、「夏祭りでポップコーンを作っ
て！」とお願いしたところ、お父さんたちが快く手伝ってくれました。

また、こういった関係ができてから、青少年指導員や体育指導員を担ってくださるお父さんも出てきました。
(「仲手原マザークラブ」より)

同じサークルや団体で活動してきたメンバーから見つける

・同じ育児サークルで一緒に子育てしてきたお母さんや、育児サークルリーダーの経験のあるお母さんに声を掛け、自分の新しい子育て支援の活動に協力してもらいました。(分科会 山田委員より)

・自分の団体の活動以外に、民生委員としても活動しています。民生委員活動の中で知り合った人が、自分の団体のメンバーに入ってくれることがしばしばあります。会社勤めを終え、「何かやりたい」と感じている人は多いと思います。常にそういった情報に敏感であるよう心がけ、声かけを行っています。
(「仲手原マザークラブ」より)

困っているときこそ、近くの人が助けてくれる

障害児がいる家族のサポート活動を始めようとした当初、ボランティアの仲間など周囲の人々や、地域の社会福祉協議会も家族へのサポートの必要性を感じていたため、活動への協力が得られ、NPOとしての活動は自然な流れで始まっていきました。しかしサポートをしたいという思いこそあれ、ゼロからのスタート同然でした。当初、社協の存在も、NPOという活動形態も知りませんでした。経営ノウハウも、資金も特別ありませんでした。

しかし、「困っているからこそ助け合いは生まれる」と、主婦友達や子どもの学校のPTA仲間など昔からのなじみの人々が協力してくれました。大家さんや市役所職員、税務署の担当者までも協力してくれました。
(「NPO法人あいあい」より)

2 參考資料

横浜市社会福祉協議会 助成金情報

横浜市社会福祉協議会で実施している「よこはま ふれあい助成金」は、第4次横浜市地域福祉活動計画(H22-H25)に沿った市民の皆さんの新たな活動を支援していく助成金です。

横浜市地域福祉活動計画は、誰もが安心して自分らしく暮らせる地域地域社会を目指し、市民並びに福祉保健の関係団体や事業者等が主体的に地域で進めていく取組み・活動についてまとめたものです。

ふれあい助成金は地域福祉活動計画の3つの重点計画の内容に合致する対象事業に対して、審査を経て助成されます。

計画についての詳細は URL:<http://www.yokohamashakyo.jp/sisyakyo/s-6-2.html> をご参照下さい。

■市社協受付分

助成区分	主な対象事業	助成年限	助成条件
横浜市社協の助成金	重点計画1 「つながり」を大切に 地域をつくる	1年 (★)	調査研究事業は、研究結果を公表・発表すること
	当事者団体等による福祉啓発事業 *障害児者団体等が主体的に福祉理解を進める事業		当事者団体関係者以外への啓発であること
	重点計画2 情報が、支援が届くしくみをつくる		情報が届いたかどうかの検証について計画されていること
重点計画3 一人ひとりの参加で市民活動の輪を広げる	必要な人に情報を届けるための事業 *既存情報の整理・再発信や、新たな方法による情報発信の取組みを行う事業		年度中に開設準備を行い、翌年度の4月1日までに開所すること
	障害者作業所、障害者グループホームの開設準備事業		
	複数の機関・団体による協働事業		同一法人・同一団体内による協働でないこと

★一度助成を受けた事業でも、平成25年度まで継続申請することが可能です。

助成内容を変更することがありますので、必ず下記窓口でご確認下さい

詳しくは横浜市ボランティアセンターまでお問い合わせ下さい

電話201-8620

FAX201-1620

E-mail : yvc@yokohamashakyo.jp

URL: <http://www.yokohamashakyo.jp/yvc>

■各区の区社協の助成金

助成区分	主な対象事業	助成年限	助成条件
各区社協の助成金	市民参加による地域福祉推進事業	助成年限なし	各区社会福祉協議会にて、受付・審査・決定を行います。詳細は各区社協へお問い合わせ下さい。 お申し込みは事業の中心・もしくは事業所が所在する区の社協になります。
	視覚障害者や聴覚障害者への技術を要する直接支援事業		
	障害当事者活動		
	障害児者及びその家族が行う障害児者の自立支援並びに社会参加のための事業		
	障害当事者やその家族などによる宿泊、日帰りハイク事業		
	福祉のまちづくり活動		
	「誰もが安心して暮らしていけるまちづくり」を市民参画型で行う事業		

詳しくは各区の区社協ボランティアセンターまでお問い合わせ下さい

URL : <http://www.yokohamashakyo.jp/link/s-9-2.html>

ヒアリング先一覧表

ヒアリング対象（団体）	活動拠点区	分野	紹介者 （敬称略）
仲手原マザークラブ	港北区	自治会活動（町内会婦人部）	井上 禮子
湘南桂台自治会	栄区	老人会、自治会活動	竹谷 康生
NPO法人 あいあい	港北区	障害児親子・兄弟の支援（託児等）	斉藤 保
泉区下和泉住宅自治会	泉区	自治会活動（送迎等）	打合せの場で 案として出る
家庭教育学級ばんぶきん運営委員会 （NPO法人 横浜市民アクト）	磯子区	子育て	吉弘 初枝
さわやか港南	港南区	高齢者の在宅支援、託児の子育て支援等有償サービス、 青年学級、障害者・高齢者の地域の居場所等	黒津 貴聖
「脳イキイキ教室」サポーターの会	中区	高齢者	柴田 眞紀
NPO法人 5つのパン	都筑区	精神障害者ホームヘルプ事業、地域活動支援センター事業 （コミュニティカフェ）	斉藤 保
ヒアリング対象（分科会委員） （敬称略）	活動拠点区	所属	
斉藤 保	港南区	縹イータウン、港南タウンカフェ	
柴田 眞紀	中区	本牧原地域ケアプラザ地域活動交流事業コーディネーター	
白岩 正明	旭区	旭区若葉台地区社協会長	
中野 しずよ	瀬谷区	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま理事長	
山田 美智子	西区	よこはま一万人子育てフォーラム	

※参考資料（既存の冊子等）

既存の冊子（事例集等）	発行元
国民生活白書	内閣府
ふれあいの居場所－ガイドブック－	公益財団法人さわやか福祉財団
新しい風をつくる地縁型組織とテーマ型組織の 協働ヒント集	市民セクターよこはま・横浜市健康福祉局福祉保健課
サロン活動ヒント集	南区社会福祉協議会
人がつながり地域が活きる 横浜市地域ケア プラザ地域活動交流事例集	市民セクターよこはま・横浜市健康福祉局福祉保健課

新たな担い手
を見つける！

担い手が継続して
活動に参加していく！

ヒント集

(リーフレット案)

地域で活動をする上で、どうしたら新しい人に参加してもらえるか、どうしたら参加している人に活動を続けてもらえるか、といったことについてお悩みではありませんか？
そういったお悩みについて、ちょっとした参考となるヒントを、簡単にまとめました。

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会

事務局

横浜市健康福祉局福祉保健課

〒231-0017

横浜市中区港町1-1

TEL : 045-671-3567 FAX : 045-664-3622

URL : <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/keikaku/>

横浜市社会福祉協議会

〒231-8482

横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

TEL : 045-201-8616 FAX : 045-201-1620

URL : ○○

◆地域での活動を支援する機関について◆

地域には、市民のみなさまの地域活動を支援する、さまざまな相談支援機関があります。これから何か活動を始めようと思っている方、現在の活動について困りごとがある方など、一度相談をしてみたいかがでしょうか。

今まで知り得なかった情報、仲間を増やしていくためのヒントや、違った視点での助言など、今後の活動に役立つ情報や支援が受けられます。

◆横浜市ボランティアセンター

ボランティアセンターでは、ボランティアを必要としている人やボランティア活動をしたい人をつなげたり、ボランティア情報の提供や相談支援等を行っています。

また、各区にあるボランティアセンター等とも連携して、ご相談に対応しています。

〒231-8482

神奈川県横浜市中区桜木町1-1

(横浜市健康福祉総合センター8F)

TEL : (045) 201-8620 FAX : (045) 201-1620

URL : <http://www.yokohamashakyo.jp/yvc/top.html>

◆地域ケアプラザ(横浜市内に123か所)(平成23年5月時点)

身近な地域の福祉・保健活動の拠点として、施設をご利用いただけます。

また、子育てサロンや健康体操教室など、地域のみなさんが参加できる事業を行っています。

さらに、ボランティアや地域の活動の情報や相談支援等を行っています。

各区の地域ケアプラザの所在地、連絡先等については、

URL :

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/shisetsu-joho/careplaza.html>

◆横浜市市民活動支援センター

NPO やボランティア団体などによる、公益的な市民活動を総合的に支援している拠点です。

さまざまな分野の市民活動団体や、ボランティアなど、すでに活動している人たちや、これから活動しようとしている人たちを応援しています。

また、各区にある区民活動支援センター等とも連携して、ご相談に対応しています。

〒231-0062

横浜市中区桜木町1-1-56

みなとみらい21クリーンセンタービル4・5階

TEL : 045-223-2666 FAX : 045-223-2888

URL : <https://opencity.jp/yokohama/>

※先進的事例・解説・コラム等

※先進的事例・解説・コラム等

①自ら探しに行く

新たな仲間を見つけるために、普段どのような工夫をされていますか？
日常の活動や生活の中で、仲間を増やす機会は意外と多くあります。実践してみてはいかがでしょうか？

◆PTA 活動やカルチャーセンター等

日常のつながりの中で、新たな仲間を探してみる。

◆活動に関する研修や講座、地域イベント等

同じ目的を持って参加している他団体のメンバーの中から、自分の活動にも参加してもらいたいと思う人に声をかけてみる。

◆地域のキーパーソンに活動を紹介してもらう

地域内で既にネットワークを持っている人たちに、活動の紹介をしてもらう。

※イラストとか？

いわゆるヘッドハンティングです！

※自治会・町内会長、地区社会協議会会長、民生委員・児童委員等が挙げられます。

②声かけを工夫する

導入文

ヒント

ヒント

ヒント

※①のように、項目を埋めていくイメージ

解説・効果等

解説・効果等

④その気にさせる、やりがい・モチベーション

⑤活躍の場をつくる

⑥その他

ヒント集に関する今後のスケジュールと活用について（案）

1 作成に関する今後のスケジュールについて

委員会での意見を踏まえ、次のスケジュールでヒント集冊子及びリーフレットを完成させ、第 14 回市計画策定・推進委員会（6 月開催）で報告します。

なお、リーフレットについては、ヒント集冊子の要約をして内容を絞り掲載します（資料 2-④参照）。

【スケジュール】

日程	内容
4 月下旬まで	市計画策定・推進委員会での意見を踏まえ、事務局で冊子及びリーフレット(案)を作成
4 月下旬～5 月中旬	市計画策定・推進委員会委員、分科会委員に内容確認照会実施
5 月下旬	冊子、リーフレット確定調整
5 月下旬～6 月上旬	冊子、リーフレット印刷発注、完成
6 月	第 14 回市計画策定・推進委員会で冊子及びリーフレット（完成版）を報告

2 ヒント集の活用について

(1) 基本的な考え方

ア 作成したヒント集を、ただの成果物として関係機関への配布で終わりとはしない。

イ ヒント集を、活動者の悩みの解決に向けた重要なツールとして、継続して活用する。

※ 活動者に情報提供し活動の参考にしてもらう、活動者を支援する立場の区ボランティアセンター、区民活動支援センター、地域ケアプラザ等において、相談支援を行う際に活用するなど。

(2) 活用に向けた取組

ヒント集を実際に、地域活動者に活用していただくために、

ア 活動者向けに

活動者が参加する既存の会議、研修等の機会を活用して、ヒント集の活用についての説明を行う。

例：区社協関係の地区社協分科会、ボランティア連絡会及び市民児協等の時間を使って説明を行う。

イ 支援者向けに

相談支援機関である、区ボランティアセンター（福祉保健活動拠点）、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、地区センター、コミュニティハウス等での相談支援に活用していただくために、相談支援機関向けにヒント集の活用についての説明を行う。

例：区関係課長会、係長会、区社協事務局長会、地域ケアプラザ全体所長会、地域ケアプラザ地域交流研究会、その他相談支援機関を対象とした研修会等の時間を使って説明を行う。

(3) 活用に向けたアイデア

分科会の委員が講師になって、事例を踏まえた研修や説明を実施

(4) 今後のスケジュール

第 14 回市計画策定・推進委員会での報告後、関係課長会、係長会、区社協事務局長会議等でヒント集活用のための説明をした上で、2（2）の「活用に向けた取組」を実施します。

～推進の柱2「必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」～ 「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」の結果について（報告）

1 趣旨

第2期横浜市地域福祉保健計画「推進の柱2 必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」における取組の一環として、平成23年度までに、地域単位での計画推進と連動した公民のネットワーク形成のために、『地域支えあいネットワーク』推進指針を改訂することとしています。

そこで、「地域支えあい連絡会」及び「地域支えあいネットワーク」の成果と課題並びに「地域福祉保健計画」における地区別計画の策定・推進状況を踏まえ、平成23年度に作成予定の「公的機関向け業務指針（公民ネットワーク形成の業務指針）」へのステップとして、次のねらいをもって検討しましたので報告します。

- (1) 日常生活圏域において、必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくるために、地域ケアプラザがその機能と人材を活かして取り組むべきことをまとめる
- (2) 今後求められるネットワークのあり方を検討し、その構築に向けて、地域ケアプラザが役割を更に果たしやすくなるような、区社協及び区役所（当検討会でいう区役所とは特に注釈がない限り福祉保健センターのことを指すものとする）の関わり方をまとめる

2 開催時期及び回数等

項目	時期	内容
第1回検討会	H22. 9. 28	地域ケアプラザだから担えるネットワークづくり (1) ネットワークづくりとは (2) 地域ケアプラザの機能や人材を活かしたネットワークづくり
中間報告	H22. 11. 11	第12回第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会
第2回検討会	H22. 11. 30	これからのネットワークづくり (1) 専門機関との協働によりチャレンジしたいテーマ (2) 潜在化しがちな支援困難層の存在に目を向けた取組の必要性
第3回検討会	H23. 1. 18	地域ケアプラザが担うネットワークづくりのまとめに向けた意見交換
最終報告	H23. 3. 29	第13回第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会

3 検討会出席者

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会委員4人（学識経験者3人、地域ケアプラザ所長1人）と、地域ケアプラザ職員、区社会福祉協議会職員及び市区局職員8人が検討メンバーです（表1参照）。

事務局として健康福祉局福祉保健課、オブザーバーとして市社会福祉協議会企画・IT担当及び区社協機能強化担当、健康福祉局高齢在宅支援課、健康福祉局地域支援課が出席しました。

4 検討会の位置づけと検討結果の活用方法

検討した内容は、第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会に報告し、意見を勘案しながら、検討を進めました。

検討結果は外部の学識経験者を含めた検討会としての提言とし、これを受け止めながら、健康福祉局、区役所、区社協、地域ケアプラザ等が、これからの時代に果たしていくべき役割や業務のあり方を具体的に議論していくための礎とします。

5 検討結果概要と平成23年度以降の取組予定

結果の概要は別添のとおり・平成23年度以降の取組予定は図1のとおり

<表 1 検討会出席者>

○第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会委員(五十音順 敬称略)

	氏名	所属	分野
1	石塚 淳	横浜市桂台地域ケアプラザ 所長	地域ケアプラザ
2	大木 幸子	杏林大学保健学部 教授	学識経験者(保健)
3	岡田 朋子	田園調布学園大学人間福祉学部 講師	学識経験者(福祉)
4	森本 佳樹	立教大学コミュニティ福祉学部 教授	学識経験者(福祉)

○地域ケアプラザ職員・社協職員・市職員

	氏名	所属	分野
5	大神田 絵美	横浜市城郷小机地域ケアプラザ コーディネーター	地域活動・交流
6	藤丸 京子	横浜市矢向地域ケアプラザ コーディネーター	地域活動・交流
7	和田 朋子	横浜市富岡地域ケアプラザ コーディネーター	地域活動・交流
8	中山 麗子	横浜市下和泉地域ケアプラザ 主任ケアマネジャー	地域包括支援センター
9	池田 誠司	青葉区社会福祉協議会 事務局次長	区社協・地域福祉活動計画
10	丸山 尚子	栄区福祉保健課事業企画担当 保健師	地域福祉保健計画
11	徳田 文男	健康福祉局地域福祉保健部長	
12	深川 敦子	健康福祉局地域福祉保健部福祉保健課長	

○事務局

健康福祉局地域福祉保健部福祉保健課

○オブザーバー

健康福祉局地域福祉保健部地域支援課

健康福祉局高齢健康福祉部高齢在宅支援課

市社会福祉協議会 経営企画部企画・IT等担当 / 地域活動部区社協機能強化担当

(所属は平成 22 年 12 月現在)

●●● 地域ケアプラザ が担う ネットワークづくり の あり方 検討会 <結果概要> ●●●

検討内容 「地域支えあい連絡会」及び「地域支えあいネットワーク」の成果と課題、並びに「地域福祉保健計画」における地区別計画の策定・推進状況を踏まえ、第2期横浜市地域福祉保健計画に基づき

平成 23 年度に作成予定の「公的機関向け業務指針（公民ネットワーク形成の業務指針）」へのステップとして、次のねらいをもって検討した。

- ・日常生活圏域において、必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくるために、地域ケアプラザがその機能と人材を活かして取り組むべきことをまとめる
- ・今後求められるネットワークのあり方を検討し、その構築に向けて、地域ケアプラザが役割を更に果たしやすくなるような、区社協及び区役所の関わり方をまとめる

「区役所」とは、特に注釈がない限り
福祉保健センターのことを指すものとする

<検討結果は外部の学識経験者を含めた検討会としての提言。健康福祉局、区役所、区社協、地域ケアプラザ等が、これからの時代に果たしていくべき役割や業務のあり方を具体的に議論していくための礎とする。>

検討のベースとなるもの

第1章 ネットワークづくりの基本的な理解

【ネットワークとは何か】 関係者同士が、その地域における情報や課題を共有し、課せられた使命や活動の目的を共通理解して、それぞれの役割を果たしながら、必要な取組を共に行っていくための手段（ツール）である。

【ネットワークの類型】 「個別支援のためのネットワーク」と「地域の基盤づくりのためのネットワーク」がある。

【ネットワークづくりの意義と求められるスキル】 多様で解決困難な生活課題を抱える人の増加により、サービスを自ら求めることが困難な人々の発見や支援への仲介と、有効な支援策の検討に資すること。ネットワークづくりには戦略的な関わりと評価の視点が必要。

第2章 これまでのネットワークづくりの成果と課題を受けて

- ・日常生活圏域における「顔の見える関係の構築」に大きく貢献。一方では、連絡会議自体が目的になりがちという課題もある。
- ・その課題の解決に向けては、具体的な取組を推進するには更にネットワークが必要だと感じ、ネットワークが広がれば更に具体的な取組の必要性を認識するという好循環を感じる経験を重視したい。
- ・ネットワークづくりは誰のためにやっていることなのか、何を目標しているのか、連絡会議を実施する意図はどこにあるのかということをも改めて考え、機会あるごとにその原点に立ち戻り、ネットワークづくりは手段（ツール）に過ぎないと捉えて取り組みたい。

今後の地域ケアプラザへの期待と、区・区社協に求められる関わり

4章 解決困難な生活課題を抱える人の支援策を考える

～日常生活圏域に存在する地域ケアプラザへの期待～

【解決困難な生活課題を抱える人に地域ケアプラザが関わる意義】 解決困難な生活課題を抱えているが、自分から困ったとは言えない・言わない人々の支援には、スパンを長く持てる取組が必要。その取組は、公的機関や専門機関による支援ネットワークの中で、生活場面に一番近い地域ケアプラザが果たせる重要な機能ではないだろうか。

【解決困難な生活課題を抱える人への支援に欠かせない視点】

- ①制度・サービスへ近づくための支援（「伴走的支援」）の必要性を判断する
- ②ネットワークに潜む課題である「支援の階層化」に気づく
- ③一人ひとりが持つ「生活の場」の意味をより深く考える

【「支援の階層化」】 専門性の高い相談機関と地域の支援者は上下関係にあるのではなく、役割や機能が違う。無意識でも、専門機関→地域の相談機関→地域の支援者という階層化を生じさせ、地域の支援者のモチベーション低下や困難感につなげてはならない。

【「生活の場」の意味】 緊張の連続の生活の中で、地域のサロン等が集まって自然にくつろげることには深い意味がある。そのことを、専門的支援の都合や公的サービスの穴埋めや代替と捉えてはならない。

【地域ケアプラザに期待したい役割と欠かせない専門機関との連携】 地域に根付いて活動してきた地域ケアプラザだからこそ、このような人々の存在に目を向けやすい。支援の階層化に気づき、生活の場の意味を見出しながら、必要な取組を検討する場を持つとすることこそが、取組の第一歩であり、これからのネットワークづくりとして期待される／第1～3層における地域住民とのネットワークと、第5層における区域のネットワークを、第4層というどちらにも身近な日常生活圏域において双方向につなげていく役割と仕組みが活きる／解決困難な生活課題へのチャレンジには、特定の分野の専門機関との協力関係が大きな原動力になる。お互いのノウハウを共有し、それぞれの専門性を発揮して、一つの目標に向かって協力しあうことが求められる。

第5章 区社協及び区役所の関わり

- ・区社協及び区役所には、地域ケアプラザがもっとその機能や人材を活かせるようにするための役割がある。
- ・再整理すべきことは、地域ケアプラザの設置目的の理解に基づく区社協・区役所職員による協働の姿勢のあり方、地域ケアプラザ・区社協・区役所の強みと弱みを意識しあった三者連携のあり方の再構築（コーディネーター連絡会や地域ケアプラザ所長会の事務局機能の持ち方、地域ケアプラザの運営・管理を委託する立場としての区役所の役割等を含む）等

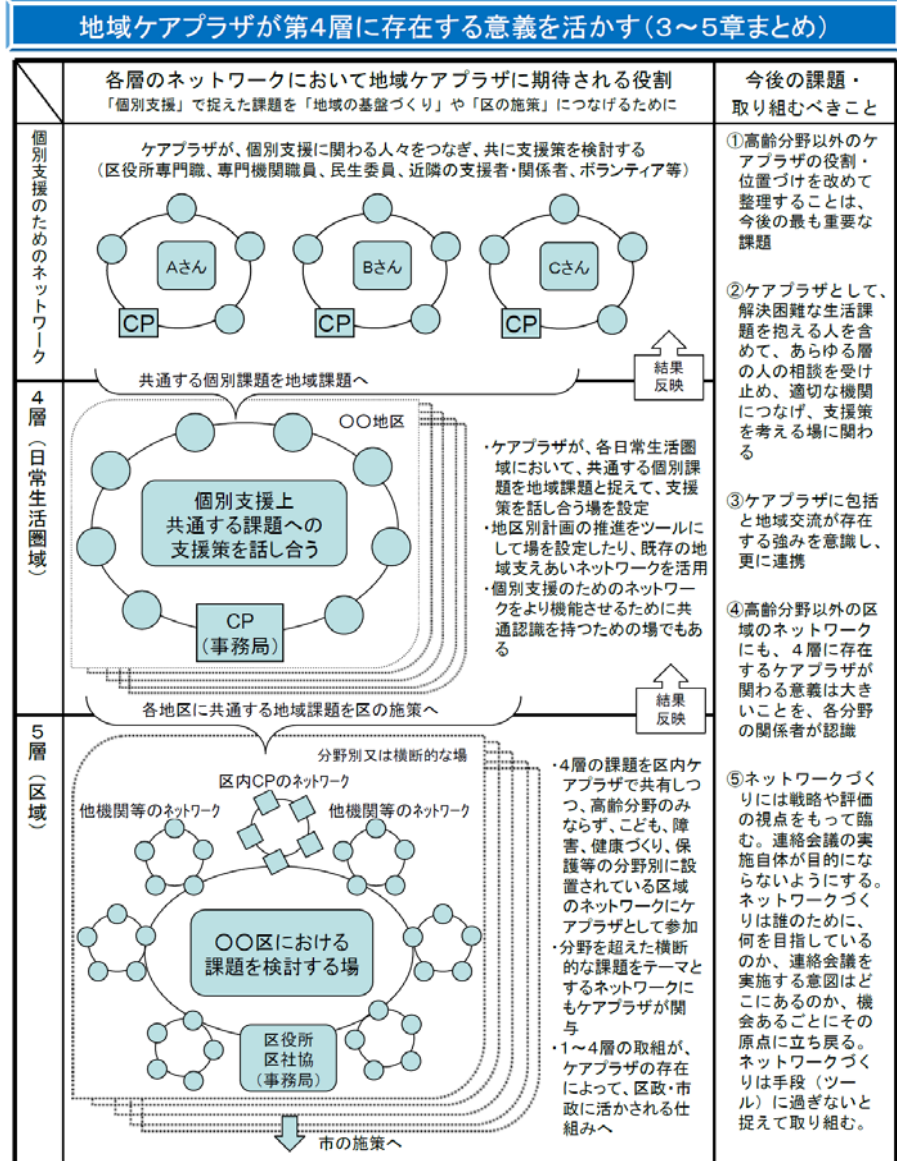
地域ケアプラザが取り組むべきこと 第3章 地域ケアプラザであるからこそ担えるネットワークづくり

【活かすべき地域ケアプラザの機能と人材】 包括と地域交流が、それぞれの業務・立場から捉えた地域の情報を日常的に共有し、本市の地域ケアプラザの体制の強みを意識して、所内連携に努める／区社協や区役所と連携しやすい立場にあり、地域の取組を区の施策へ発展させたり、他の地域の取組へと波及させる視点も併せ持つようにする／高齢分野以外に関する地域ケアプラザの役割・位置づけを改めて整理することは、今後の最も重要な課題。

【近隣（第1～3層）における取組～支援が必要な人の早期発見のために～】 地域住民によって把握された支援が必要な人の情報が、早期に地域ケアプラザに伝わってくるようなつながりをつくる／対応した結果を、支援が必要な本人の了解の下に地域住民にフィードバックすることも必要。この中で得られた、地域ケアプラザに対する地域住民からの信頼が、公的機関や専門機関、ひいては区政・市政に対する信頼の基になる。

【日常生活圏域（第4層）における取組～生活支援の具体策を検討するために～】 個別支援のためのネットワークの積み重ねを通じて、地域で取り組める支援策を考える必要性を関係者に意識付け、地域の基盤づくりのためのネットワークをつくる。

【区域（第5層）における仕組みへ～日常生活圏域における取組を区政に活かすために～】 第4層までのネットワークによって取り組まれたことや検討されたこと、解決できていない課題について情報発信し、区域の新たな仕組みや制度の整備につなげる／地域ケアプラザが第4層に存在し、人々の生活により身近なところにながら、公的機関の位置づけを持っていることの意義を、公的機関・専門機関が認識して地域ケアプラザに関わっていく姿勢も求められる。



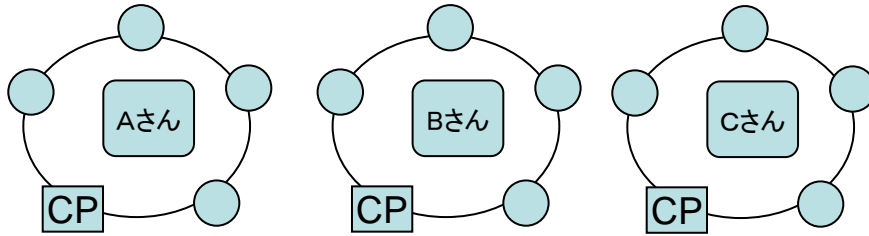
地域ケアプラザが第4層に存在する意義を活かす(3~5章まとめ)

各層のネットワークにおいて地域ケアプラザに期待される役割
「個別支援」で捉えた課題を「地域の基盤づくり」や「区の施策」につなげるために

今後の課題・
取り組むべきこと

個別支援のためのネットワーク

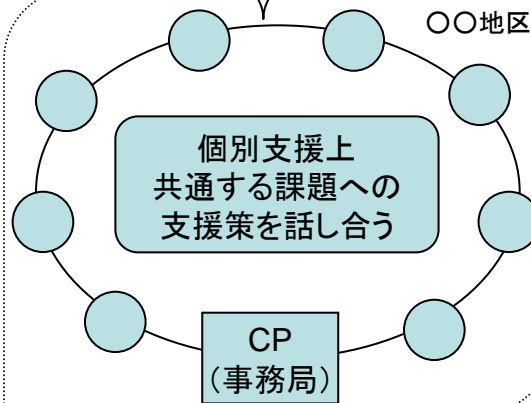
ケアプラザが、個別支援に関わる人々をつなぎ、共に支援策を検討する
(区役所専門職、専門機関職員、民生委員、近隣の支援者・関係者、ボランティア等)



共通する個別課題を地域課題へ

結果反映

4層 (日常生活圏域)

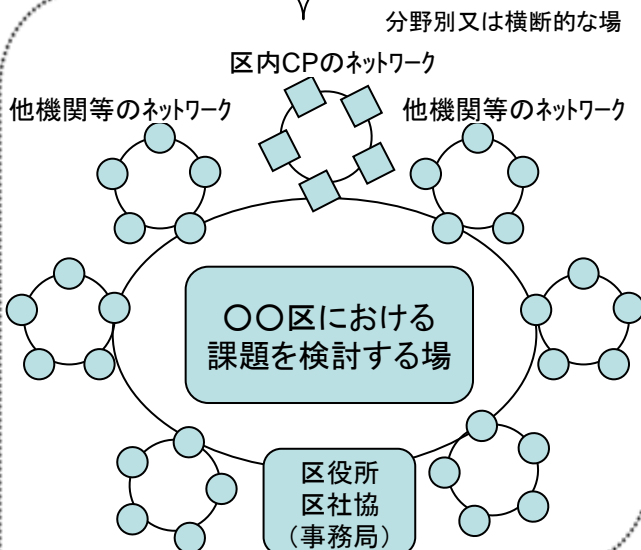


- ・ケアプラザが、各日常生活圏域において、共通する個別課題を地域課題と捉えて、支援策を話し合う場を設定
- ・地区別計画の推進をツールにして場を設定したり、既存の地域支えあいネットワークを活用
- ・個別支援のためのネットワークをより機能させるために共通認識を持つための場でもある

各地区に共通する地域課題を区の施策へ

結果反映

5層 (区域)



- ・4層の課題を区内ケアプラザで共有しつつ、高齢分野のみならず、こども、障害、健康づくり、保護等の分野別に設置されている区域のネットワークにケアプラザとして参加
- ・分野を超えた横断的な課題をテーマとするネットワークにもケアプラザが関与
- ・1~4層の取組が、ケアプラザの存在によって、区政・市政に活かされる仕組みへ

市の施策へ

- ① 高齢分野以外のケアプラザの役割・位置づけを改めて整理することは、今後の最も重要な課題
- ② ケアプラザとして、解決困難な生活課題を抱える人を含めて、あらゆる層の人の相談を受け止め、適切な機関につなげ、支援策を考える場に関わる
- ③ ケアプラザに包括と地域交流が存在する強みを意識し、更に連携
- ④ 高齢分野以外の区域のネットワークにも、4層に存在するケアプラザが関わる意義は大きいことを、各分野の関係者が認識
- ⑤ ネットワークづくりには戦略や評価の視点をもって臨む。連絡会議の実施自体が目的にならないようにする。ネットワークづくりは誰のために、何を目指しているのか、連絡会議を実施する意図はどこにあるのか、機会あるごとにその原点に立ち戻る。ネットワークづくりは手段(ツール)に過ぎないと捉えて取り組む。

地域ケアプラザとネットワークづくりの＜現状＞

1 ケアプラザのネットワークづくりには、一定の成果が認められている一方、地域の特性に応じた様々な活動主体との、より一層のネットワークの構築も求められている

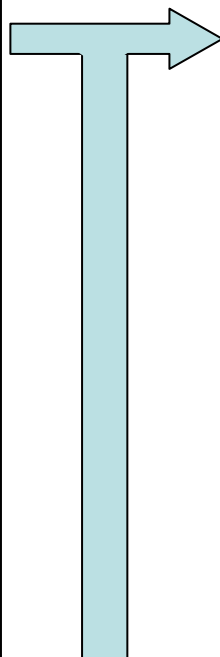
- ネットワークを構築する目的をメンバー全員で共有できていないと、事務局であるケアプラザが負担を感じやすい。
- ネットワークのメンバーによる連絡会議の実施自体が目的になってしまいがち。

2 高齢分野以外の個別支援については、ケアプラザに専従職員がいない中でも、相談を受け止めることへの期待が大きくなっている

- 高齢分野は地域包括支援センターが設置されていることにより、ケアプラザ内で、個別支援と地域支援が完結。区政への反映も区高齢者支援担当との密接な連携により可能。→高齢分野はケアプラザとして大きな成果。
- 地域交流のコーディネーターは分野なく地域福祉の推進に取り組んでいるが、個別の相談業務にどこまで関わるのかが不明確。しかし、ケアプラザにおける個別の相談内容から地域の課題を捉えることは本来業務。

3 区政への反映の仕組みが限られている

- 高齢分野以外のケアプラザにおける取組の実践や課題の把握が行われても、区の各分野の所管との連携の場は区に委ねられ、市として受け止める仕組みが十分とはいえない。



検討会の議論・提言を受けた取組により＜目指す姿＞

1 ケアプラザ職員がやりがいと目的意識を持ち、しかも楽しくネットワークづくりに取り組んでいる

- ネットワークの構築が地域の取組を生み出し、人々の生活に役立ったという成功体験を積み重ねられている。

2 ケアプラザは高齢分野以外の個別支援の相談も受け止め、必要に応じた機関につなげている／分野が明らかではない又は分野が重複する解決困難な個別支援の課題に、ケアプラザとして向き合える土壌（区・区社協や専門機関との連携）ができている

- あらゆる相談をケアプラザで受け止めることの意義をケアプラザ内外で認識している。

3 高齢分野以外においても、4層（日常生活圏域）に存在するケアプラザが、1～3層（近隣）と5層（区域）のつながり役を担っている

- ケアプラザの強みと、区・区社協・専門機関の強みが相互理解されている。
- 地域福祉保健計画の地区別計画や地域支えあいネットワーク等の仕組みを活用して、ケアプラザの使命を果たしている。
- 6層（市域）との関係も意識して区・区社協が関わっている。

検討会の議論・提言を受けた当面の取組（案）

- A ネットワークづくりのスキル（戦略的な関わりと評価方法）の習得＜研修実施とOJTの充実＞とネットワークづくりによる成果見える化＜評価の実践（地域支えあいネットワーク実績報告書の改訂等を含む）＞
- B ケアプラザとして高齢分野以外の個別支援に関わる意義の明確化＜各分野における公的機関の業務指針作成＞
- C 区の担当が不明確な分野でも、1～3層（近隣）や4層（日常生活圏域）でキャッチした個別支援の課題を、5層（区域）及び6層（市域）で検討できる仕組みづくり＜総論としての公的機関の業務指針作成＞

平成 23 年 3 月 29 日
 横浜市社会福祉協議会経営企画部
 横浜市健康福祉局福祉保健課

「地域活動者のための個人情報の手引き」について

1 経緯

個人情報の保護は、個人の権利や利益を守るために重要です。しかし、個人情報の保護に関する法律（いわゆる「個人情報保護法」）の施行以降、

- ①個人情報の保護についてのいわゆる“過剰反応”や、
- ②福祉保健の支援を必要とする方の情報について、本人から情報を得ることや活動団体間で情報を共有することが難しくなったとの問題が寄せられています。

そこで、第2期横浜市地域福祉保健計画 推進の柱2「必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」と、第4次横浜市地域福祉活動計画 重点項目「情報が、支援が届くしくみをつくる」の中で、個人情報の保護と活用が本人のメリットにつながるよう、正しい理解を広めることを掲げています。

昨年度は「地域福祉保健活動を推進するための情報共有のルールづくり検討会」を全4回開催し、その中で情報の取扱いルール手引書等の作成の必要性が提起されました。

それを受け、今年度は「地域活動者のための個人情報の手引き」の作成に取り組みました。

2 目的

- ①個人情報についての理解が進み、更に地域活動を活発に行えるようになることで、
- ②必要な人に支援が届く地域づくりの推進につながることを目的として、地域活動者共通のルールとなる「手引き」を作成します。

3 対象（手引きの読み手の想定）

地域活動者および団体

※ 民生委員・児童委員については、民生委員法第15条により個人の秘密を守ることが義務付けられています。民生委員・児童委員にとっての手引きについては、横浜市健康福祉局地域支援課が平成22年2月に発行した「民生委員・児童委員、主任児童委員活動ガイドライン Q&A（個人情報と守秘義務編）」があるため、手引きの読み手として想定していませんが、民生委員・児童委員にとっても参考にできるものと考えています。

4 地域活動における情報共有のルールづくり検討会

- ・検討内容：手引き（案）の作成および活用方法の検討
- ・メンバー

所属	職位	氏名
市社協区社協機能強化担当	課長	知久 達哉
市社協地域福祉課		齋藤 佳代子
市社協施設管理担当		関野 雅徳
健康福祉局福祉保健課（事務局）	担当係長	鳥居 俊明
健康福祉局福祉保健課（事務局）		佐藤 雄亮
市社協経営企画部企画・IT等担当（事務局）	課長	長尾 克也
市社協経営企画部企画・IT等担当（事務局）		北山 幸

・事務局

横浜市社会福祉協議会 企画・IT等担当
横浜市健康福祉局福祉保健課

5 スケジュール（3月以降は予定）

- ・平成22年7月～平成23年2月
手引き（案）の検討（健康福祉局および市社協職員による検討会開催 全5回）
- ・平成22年11月～12月
区、区社協、地域ケアプラザを対象に、素案について意見募集・集約
- ・平成23年3月
手引き完成
- ・平成23年4月
手引き印刷
- ・平成23年5月～
手引き配布

6 手引きの内容

地域活動者が個人情報について正しく理解でき、地域活動に反映できる内容とします。また、読みやすく、理解しやすい内容にするため、A3両面サイズとします。

- ・相手との信頼関係の構築
- ・個人情報管理・活用のルールを理解
- ・公的機関との情報共有 等

7 手引きの印刷

A3版 2色刷 10,000部印刷

ホームページからもダウンロードし、印刷できるようにします。

8 手引きの配布

区役所、区社協、地域ケアプラザ、区民活動支援センター等で配布するとともに、ホームページへ掲載し、ダウンロードして活用していただけるようにします。

9 手引きの活用

地域活動者向けに活用していただけるように、各種打合せ、会議、研修等の機会を通じて、手引きの周知を行います。

<周知予定先>

- ・区運営企画係長会
- ・区社会福祉協議会事務局次長会
- ・地域ケアプラザ分科会
- ・その他関係会議、研修等

※23年度は地域活動者向けへの配布および説明、関係機関への周知を実施します。

個人情報について
誤解していませんか？

わかる！



地域活動者のための

個人情報(秘) の手引き

個人情報は誰にとっても大切なものです。

正しく理解し、大切に扱うことで

相手との**信頼関係**を築くことができます。

人と人との信頼関係に基づく「情報の共有」が、
誰もが安心して暮らせる地域社会をつくる！

個人情報は大切なもの





個人情報、保護の重要性を理解し、適切に取り扱うことが大切です



この手引きでは、地域で活動する個人および団体を含めて「地域活動者」と表記しています。



地域づくりと個人情報



①そもそも 個人情報とは？

特定の個人を識別することのできる情報のこと

氏名・生年月日・住所・家族関係・職業など。健康状況や財産等の情報であっても、氏名等と組み合わせることで特定の個人を識別できれば個人情報にあたります。写真や映像も個人情報になる場合があります。

②地域活動者と個人情報の関係

「個人情報保護法」では・・・

「個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることにかんがみ、その適正な取扱いが図られなければならない。」と定めています。

「横浜市個人情報の保護に関する条例」では・・・

市民の責務として、「市民は、個人情報の保護の重要性を認識し、個人情報を適切に取り扱い、他人の権利利益を侵害することのないよう努めなければならない。」と定めています。

個人情報を扱うときは、法律の趣旨を踏まえ適切に取り扱うことが大切ですが、法の対象はあくまで 5,000 件を超える個人データを事業活動に利用している**事業者**です。**個人はもちろん、ほとんどの地域活動団体は法の対象には含まれていません。**

③地域の中でのいわゆる“過剰反応”

皆さんの地域でこんなことが起こっていませんか？

自治会の名簿が作れなくなった！

見守り活動の情報が得にくくなった！

これらのいわゆる“過剰反応”は、法律の意図するところではありません。「個人の権利利益の保護」と「個人情報の有用性」のバランスを図りながら、個人情報を適切に管理し、取り扱うことが大切です。

★個人情報を大切に取り扱い、地域づくりを進めるためのポイントは、次の3つです！

ポイント1

相手との信頼関係を作ることを、まず第一に心がけましょう

一人ひとりを支援し、支えあいのまちづくりを進めるためには、相手の個人情報を大切に取り扱いながら、支援の輪を広げていくことが必要です。

もしも、あなたの氏名・住所・電話番号が書いてある紙が道端に落ちていたら、話したことのない近所の方があなたの生活の様子を知っていたら、どんな気持ちがしますか？

信頼関係を築くためには、相手が大切にしたいものを、大切に扱うということ。単に個人情報の法律やルールを守るということではなく、信頼関係を築くために、個人情報を大切に扱うことに心がけましょう。

◆私たちが配慮しなければならないこと プライバシー◆

プライバシーとは・・・

「個人の私生活に関する情報や一般の人に知られていない」情報のことです。個人の思想や家庭の内情等、ある人は公開していても、ある人にとっては絶対に知られたくない場合があるなど、その範囲は本人にしか測れないものです。

地域で支援活動を上手に行うためには、個人情報の取り扱いと共に、一人ひとりにプライバシーがあることを認識し、適切な配慮を心がけることが必要です。

ポイント2

個人情報を扱うためのルールを理解しましょう

- 本人にとって大切なものであることを認識する。
- 利用する目的を特定しておく
- 目的を超えて情報を取り扱うことはしないようにする。
- 本人に目的と使用方法を伝え、本人の同意（了解）を得る
- 情報を他の人や団体へ提供することについて、本人の同意（了解）を得る

◆考えてみましょう◆

「皆さんの地域で、個人情報の正しい取扱いについてよく理解するために、どんなことができますか」

ポイント3



個人情報を大切に取り扱い、助けあいの輪を広めましょう



個人情報の保護は、個人の権利・利益を守るために重要です。しかし、支援を必要とする方の情報がなければ、困っていることなどを聞く手段も限られてしまいます。個人情報の正しい扱い方を理解し、本人から同意を得ることで、支援する方法や内容が広がります。

包括的に了解（同意）を得る

本人の支援活動という目的の範囲内で第三者へ情報を提供することをあらかじめ説明し、了解（同意）を得ている場合は、その都度了解（同意）を得なくても、第三者へ情報を提供することができます。

ただし、本人から提供しないでほしいと申し入れがあった場合は、提供を中止する必要があります。

本人の了解（同意）を得ずに個人情報を提供する場合

あらかじめ本人の了解（同意）を得ないで、第三者へ情報を提供することはできません。

ただし本人の生命・身体に危険がある等の緊急時は、本人の了解（同意）を得ずに、第三者へ情報を提供することができます。

◆考えてみましょう◆

「皆さんの地域で、個人情報を大切に取扱いって支援を広げていくために、どんなことができますか」

公的機関との情報共有について

地域の中で支援していくためには、公的サービスの利用も必要となり、公的機関との情報共有も欠かせません。

行政職員や公的な福祉の関係者（民生委員・児童委員、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会など）には守秘義務が課せられています。生命・身体・財産に関わることで、「緊急を要する」場合は、本人の了承（同意）がなくても、公的機関へ相談をお願いします。

地域の方々から信頼され、活動を応援していただけるよう、「個人情報」は正しく理解し、大切に扱うことが大切です。活動を通じて「支援が必要な人に支援が届き、助けあいの輪をつくる」そんな地域づくりに取り組んでいきましょう。

個人情報保護法について（消費者庁ホームページ）
<http://www.caa.go.jp/seikatsu/kojin/index.html>



発行 平成 23 年 3 月 日
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 経営企画部
〒230-8482 横浜市中区桜木町1-1
TEL 045-201-2090 FAX 045-201-8385
横浜市 健康福祉局 福祉保健課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
TEL 045-671-3567 FAX 045-664-3622

第4次地域福祉活動計画 リーディング事業進捗報告

1. 地区ボランティアセンターモデル設置事業

(1)目標〔地区ボランティアセンター（拠点型）設置・運営支援〕

地域住民自らが生活課題を把握し、その解決に向けた取り組みを進めることができるよう、身近な地域におけるボランティアセンター機能を強化する。

(2)進捗状況

①年度の目標4カ所に対して3カ所開設（戸塚区舞岡・旭区若葉台・青葉区荏田西）

②舞岡地区は9月、若葉台地区は1月に開所。荏田西地区は4月初旬に開所予定。

★舞岡・若葉台とも、全戸配布の地区社協だよりで周知。神奈川新聞・タウンニュース等でも紹介された。まずは地域の住民が気軽に立ち寄れる拠点として機能している。

(3)課題と今後の取組み

①残り1カ所については具体的な候補が出てきていない。引き続き区社協、地区社協に応募を働きかけ、公共施設の活用や企業の協力についても検討する。

②拠点の確保や補助金終了後の運営経費の問題がハードルになっていると考えられる。

③進行中のモデル区の連絡会開催等を通じて、他地区に広めていくための検証を進める。

2. 町内会単位の見守り・たすけあい活動モデル設置事業

(1)目標〔住民の生活に、より身近な圏域における「ささえあい」の体制づくりを支援〕

町内会単位による見守り、助け合い活動をモデル実施し、活動が効果的に機能する支援体制づくりを区社協・地域関係者等との協働により実施する。

(2)進捗状況

①モデル事業としての取組内容の条件を整備し、要綱を策定。区社協、地域ケアプラザ等に事業内容を周知。

②地区社協研修と合同で周知啓発イベント（12月）を行い周知。

③12月の周知啓発イベント等の効果により6地区からの応募があり、目標3モデル地区を選定。
平安町町会（鶴見区） ラ・クラッセ西寺尾自治会（神奈川区） 西富岡町内会（金沢区）

(3)課題と今後の取組み

①選定した3モデル地区が身守りたすけあいを効果的に行うことができるように支援を行う。

②新規モデル地区の選定を行う。

3. 企業の地域貢献活動支援

(1)目標〔企業や商店における地域貢献活動の支援に向けた環境整備を区社協等と協働して進める〕

区社協・地区社協や関係団体と連携し、福祉啓発を通して、これまで関わりが少なかった地域の商店・企業と地域団体との連携や協働推進を目指す。区社協や商店・企業へ先駆的事例やノウハウの提供等を継続的に行い、区レベルにおける「支援体制の構築」を進め、地域と地元企業や商店との「顔の見える関係づくり」を支援。

(2)事業の進捗と課題

①企業の地域貢献活動支援助成事業の実施（3区のうち2区助成決定助成）

【進捗状況】

（鶴見）障害児者の参加するふれあい運動会のプログラムを実施（11月3日）

★企業の参加者と地域の参加者との間で関係構築が進んだ

（西）区社協の相談調整機能の強化を支援し、企業向け区社協PRパンフレットを作成、

★区社協担当者向研修会（2月25日開催）で2区・2企業の取り組みについて事例を発表し、情報共有が進んだ。

【課題と今後の取組み】

来年度に向け助成区以外の区社協の取組状況等をヒアリングし、助成区を調整する。

②企業の地域貢献活動支援プログラム集の作成

【進捗状況】

企業への相談対応ツールとしての資料の作成に取り組んだ。

★企業相談に応じる中で、企業が地域の清掃活動等の活動に参加することや実際のニーズについて把握ができた。

【課題と今後の取組み】

企業の地域貢献活動に対するニーズや現状を把握し、次年度に向けプロジェクトメンバーの調整・決定を行い、プログラム集を作成する。

③福祉協力店のモデル展開

【進捗状況】

市内類似事業や他都市同事業の情報収集を行った。

【課題と今後の取組み】

・区の状況を確認した上、次年度に向け商店街等と協力して高齢者や障害者等に配慮した協力店の拡大を目指す。（区社協と協力して協力店シールの配布、コミュニケーションボードの配布）